平成３０（２０１８）年度

ＦＤ研究部会活動報告書

第１０号

徳　島　文　理　大　学
徳島文理大学短期大学部

巻　頭　言

今、学内外において、教育の見直しに対する風が吹き荒れ始めており、早急な対処が促されてきている。学外では、中教審の教学マネージメント特別委員会において、2019年１月 16 日に、今後の教学ロードマップが発表され、教育の質保証を行えるようＦＤ(Faculty Development)およびＳＤ(Staff Development)の高度化とＩＲ(Institutional Research)体制の確立を、2020 年度中に達成することが示された。学内では、2020 年度までに定員確保を強力に推進することが求められており、2018 年問題（18 歳人口の激減）を定員確保できない理由にはならないとまで提示されている。このため、良い教育と良い結果（就職）が益々求められる現状である。

以上の状況を踏まえ、ＦＤ研究部会では、学生目線に立った教育を目指して、長年行ってきた授業評価を目的にした授業アンケートを、2019 年度から学生の授業振り返りを基にしたアンケートに改訂することにした。様式もマークシート方式から Web 方式に大きく変えることにしている。これによって学生個々の意見が特定され、きめ細かい指導が可能になり、さらに学生の予習・復習の励行を促すことにもつながると考える。

今までのＦＤ活動は、大学全体の教育力向上を掲げてきた。しかし、この大学の平均値としての活動では対処が困難になってきていると考えられるため、今後の活動指針として、学部・学科単位の活動を通しての学生の質の向上を図ることが必要な段階にあると思われる。昨年度の巻頭言で提言したように、それぞれの学部・学科においてどのような学生を育て上げ、そのためにはどのようなカリキュラムが最適かを常に吟味しなければならない。一人一人の学生を大事にするためには、３Ｐ(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)の遵守、ＩＲの推進が必要であり、積極的な入学生確保も含め、学部・学科に委ねられている教育力・研究力の向上が求められている。すなわち、定員確保、学生の人気および就職活動の成果など社会の評価に晒されるのは、当該学部・学科であることを肝に銘じておかなければならない。このように考えると、今後のＦＤ研究部会の活動は明確になってくる。個々の学生の満足度を把握するとともに、学部・学科の教育研究活動の集約とあるべき姿を模索することが重要な役割として浮かび上がってくる。

最後に、学生に対する大学の基本的な役割は、一人ひとりの学生の継続的な学習を励行させ、Self-Identification（自分の正体を知ること）を確立させることであり、豊かな人間性を育てることが最終目標であると考えている。本活動報告が、今後の本学の特徴あるＦＤ活動へ一歩踏み出すための糧になるものとなることを希求して、巻頭の挨拶といたします。

副学長　　吉田　憲一

目　次

1．はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2．ＦＤ活動の内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

3．研修会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

4．全学授業評価アンケート　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

5．研究授業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

6．卒業生満足度評価アンケート　・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

7．ＩＣＴ利用による運営改善　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

8．おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

（資料編）

1．要綱・内規　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料編　1

2．ＦＤ研究部会　部員名簿・会議一覧　・・・・・・・・・・・・資料編　3

3．研修会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料編　5

4．全学授業評価アンケート　・・・・・・・・・・・・・・・・・資料編 10

5．研究授業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料編 20

6．卒業生満足度評価アンケート　・・・・・・・・・・・・・・・資料編 24

7．用語解説　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料編 29

１．はじめに

「徳島文理大学ＦＤ研究部会」（以下「本部会」）は、全学的ＦＤ活動の推進・支援を目的として平成 19 年 12 月に設立された。ＦＤは、大学設置基準「(教育内容等の改善のための組織的な研修等)第二十五条の三　大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」（平成 20 年 4 月 1 日施行）に基づく法的義務であり、本部会は、本学全体における教育内容等改善の研修・研究を組織的に実施することを使命とする。

現在、学内においては、平成 29 年 4 月 1 日施行の「徳島文理大学教育開発機構設置要綱」により、「当面する教育上の諸課題又は学長からの諮問事項を研究協議」する「学長直属の教育開発機構」内の組織、すなわち「(1)　全学教務委員会　(2)　入試制度検討部会（入学前教育を含む。）(3)　全学共通教育研究部会　(4)　ＦＤ研究部会」の一つとして位置づけられている（資料編 1 頁参照）。なお、今年度より、ＦＤ研究部会内規の改訂により、2 名の副部会長を置くことになり、二つのキャンパスより 1 名ずつ、学長より任命され、各キャンパス内での意見交換の機会も設けることとした（資料編 2 頁参照）。

設立以来の活動の詳細は、「ＦＤ研究部会活動報告書」（平成 22 年 5 月創刊、以降年次刊行）にまとめられている。本報告書（第 10 号）は、平成 30 年度（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月）の活動成果抄録である。なお、長く部会長を務められ、本学の教育内容等の改善に尽力されてこられた、古田昇文学部教授（香川キャンパス附属図書館長）の後を継ぎ、新たに部会長となった青野透（総合政策学部長）のもとでの最初の報告書となる。ご一読いただき、ご意見・ご要望を各学部の本部会員までお寄せいただければ幸いである。

２．ＦＤ活動の内容

今年度は、前年度受審した認証評価の報告を深刻に受け止めざるをえず、次の認証評価に向かってスタートする初年度となった。全学の教職員に与えられた課題は、学生定員の確保であり、ＦＤ活動はそれにつながる成果を求められていることはいうまでもない。毎月一回の定例の会議出席は各部会員にとっては負担の大きいものであるが、学長による任命であることに象徴されているように、教育開発機構の四組織の中でも最も重要な役割を与えられていることの証左でもある。

さて、平成 29 年度から新たにＳＤが義務化され、本学においても、学長を委員長とするＳＤ推進委員会が設立された。組織的な研究を義務付けたＦＤとは異なり、大学設置基準「(研修の機会等)第四十二条の三　大学は、当該大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修(第二十五条の三に規定する研修に該当するものを除く。)の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする」との条文に基づく研修の義務付けがＳＤでは主となる。なお、本改正省令の公布にあたって、対象となる職員について「『職員』には、事務職員のほか、教授等の教員や学長等の大学執行部、技術職員等も含まれること」との留意事項が記されており、とりわけ教育関係に関する研修に関しては、ＳＤ推進委員会と連携をとりながら、本部会も活動している。

年一回の、外部講師を招いての全学ＦＤ研修会は、今年度は、平成 30 年 9 月 18 日に開催し、テーマは「防災・減災及び防災教育における大学の役割」、講師は栗田充治亜細亜大学学長であった。当初の企画では、他のテーマでの実施予定であったが、自然災害が相次いだことから、部会長の急な提案により、このような内容となった。結果として、参加教員からは高い評価を得た。研修会開催案内には、「本学は、徳島県と連携し、正規科目の履修にもとづくボランティアパスポート制度を導入しているが、亜細亜大学は、1993 年に『ボランティア学』を開講した、いわばボランティア学の老舗でもある。また、日本ボランティア学習協会副代表理事を務められる栗田学長は、『防災教育から被災地学習へ』（2016 年）の論文では、『被災地の『現場』に触れ、被災者の体験を聞き、彼らの生活再建と地域復興へ向けて生きようとする思想を聞く』授業実践を明らかにされている。栗田学長のご講演を契機に、新たな時代の防災教育・ボランティア教育に取り組む議論を全学的に活発化していきたい」と記した。大規模な震災の発生を想定しての防災教育の確立は、本学における喫緊の課題と思われる。この研修会を企画した責任者として、次年度に新たな授業科目を開講するつもりである。

平成 28 年度から始めた「新任・昇任教員研修会」については、平成 29 年度同様、4 月 5 月の土曜日実施とし、2 回に集約して関係教職員の負担軽減と内容の精選・実習時間を確保した。幸い、講師役をご担当いただいた学内教員に対する、参加教員の事後評価は極めて高いものであった。

全学授業評価アンケートは、授業改善に関する学生のコメントを教員が次期以降にどのように活かしているか、また活かす努力を続けているかを、学生が知る機会のひとつである。認証評価でも注目された、教員による改善プランを示したアクションプランシートについては、今年度より、当該科目の次年度の履修登録期間まで公開することにし、次年度の学生たちの科目選択に活かせるようにした。一方で、紙による方式は、短期間に膨大な量の用紙の各教員向け配布・回収を必要とするため、職員の負担が甚だしいことが以前から指摘されており、副部会長の尽力により次年度から Web 化することとした。紙による場合は無記名であり、無責任な評価があることが常に指摘されてきたが、Web 上での回答により、回答者が特定され、出席状況、成績等のデータとリンクさせて教員各自が分析することが可能になる。結果として、授業方法を中心とした評価を主目的とするのではなく、科目ごとの学生自身の学びの振り返りを期末に行う学修活動の一環に位置付ける、新たな意義を持つアンケートとなりうる。今後は、学生たちがシラバスをきちんと読み、自らの責任で選択した科目を、最終週には自らの学修態度を含めて振り返り自己評価することを前提に、目標を持って学修することが期待できる。

卒業予定者満足度評価アンケートは、昨年度、全学的に Web を用いた方式に移行した。今年度も担当のＦＤ委員には、多大な負担を強いての実施となっており、厚く御礼申し上げる次第である。システム上の改良が重ねられ、回答結果においても高い満足度となっている学部・学科が多い。回答率の低い一部の学部においては、改善の努力を望みたい。今後は、学部ごと、あるいは各キャンパスで共通する学習環境に関する改善希望について、早急に全学的に検討することが求められる。卒業していこうとする学生たちが指摘する問題点を、喫緊に解決しなければならない課題ととらえ、その課題解決に正面から向き合うことが、定員確保には欠かせないことは明らかである。

さて、教員相互の授業参観（研究授業）は、昨年度の本報告書で、参加教職員数の伸び悩みが続き、抜本的な改革の時期にきていることが指摘されていた。学部・学科によっては、各教員の授業参観が一巡・二巡し、新規性に欠けるとの指摘もある。だが、大学設置基準が規定しているように、授業内容と授業方法の改善こそがＦＤの要である。本年度初めに、ＦＤ委員全員に、佐藤浩章編著『シリーズ大学の教授法２　講義法』（玉川大学出版部、2017 年）を配布させていただいた。ここに紹介されているのは、現在の高等教育機関で実践されるべき授業方法である。だが、そうした授業を実際に参観する機会はなかなか得られないのも事実である。

参考になるのは、今年度の「新任・昇任教員研修会」の参加者アンケートにおいて、自らが学生と同様に新たな授業方法を体験できたことが良かったとする意見が多かったことである。幸い、この研修会における学内講師のうちに、一方向的な講義形式ではなく、受講者に対して能動的な学びを課すことに長けた教員がいたのである。従来の参観と事後の意見交換という方式ではなく、自らを学生の立場に置く体験型・参加型の授業研究こそが、求められていることは明らかであろう。もちろん、九学部二十七学科を擁する本学の全教員向けの研修用授業を設計し、準備する教員の負担は非常に大きい。授業方法によっては情報センターの複数職員の補助を必要とする例もあり、安易に依頼することは厳に慎まねばならない。それを前提にしてであるが、授業方法改善に優れた、新しい授業方法を積極的に取り入れている教員を指名して、学内のＦＤモデル教員として育てる覚悟で、企画・担当をお願いすることを積極的に行っていくべきであると考える。

そこで、今年度の報告書において、教員からのＦＤ研修報告をここに紹介したい。ＳＤ研修についての省令通知の際の留意事項には「 今回の改正は、個々の職員全てに対して一律に研修の機会を設けることを義務付ける趣旨ではなく、ＳＤの具体的な対象や内容、形態等については、各大学等において、その特性や実態を踏まえ、各職員のキャリアパスも見据えつつ、計画的・組織的に判断されるべきこと」とした上で「ＳＤ の機会については、各大学等が自ら企画して設けるほか、関連団体等が実施する研修に職員が参加する機会を設けることなどが考えられること」と記されている。ＦＤについても、同様のことが言える。

今回紹介するのは、学園本部からの推薦により関連団体の研修を受けることになった教員による報告である。多くの教員が関心を持っている能動的学修をテーマとし、三カ月間にわたって、自身が能動的学修を求められた教員の報告は、全学の教職員が共有する価値があると思われる。

「能動的学修の教員研修リーダー講座」を終えて

総合政策学部　総合政策学科　准教授　水ノ上智邦

2018 年 8 月 25 日を皮切りに、9 月、10 月と計 3 日間、東京都千代田区九段北で開催された能動的学修の教員研修リーダー講座を受講することができた。この講座は一般財団法人全国大学実務協会が 2014 年度から実施するものであり、これまでに 130 名を越える全国の大学教員が参加している。大学の教育改革の名の下に、これまでの教員によ

る一方的な受動的学修から、学生による主体的な学びによる能動的学修への転換が求められる昨今、同講座は、組織的、協働的、個人的に能動的学修へ取り組むことができる能力を身につけることを目的として開講されている。

同講座は、能動的学修の技術習得を目的としているだけあり、その講座運営自体も能動的学修を通じて行われている。その全体像は次の通りである。①「事前学習」：受講者には事前にテキストおよび課題が送付されており、初回の講座までに自主学習が求められる。②「授業」：5～6 名のグループに分かれ、講師の指導の下に、様々なグループワークを通じて、能動的学修についての意見を交換し、理解を深める。③「実践」：（②で）学んだ内容を、次の授業までに各自が実践する。初回の受講から 2 回目、3 回目の受講までにそれぞれ１ヶ月の期間が空いているのはそのためである。この仕組みにより、受講者は知識として学ぶだけに留まることなく、授業で学んだ（体験した）能動的学修のテクニックを直ちに実践し、その結果を報告することで、グループの他のメンバーや講師からフィードバックを受けることができた。

私はこれまでの教員としての経験から、能動的学修という言葉を知る以前から、学生の学習意欲を高めるためにどのような授業方法が望ましいか、試行錯誤を繰り返し、また書籍や学内のＦＤから得た知識も取り入れて、結果的に一部の授業において能動的学修の技法（グループワーク、反転授業など）を取り入れてきた。しかし、能動的学修とはどのようなものであるかという全体像、あるいは最新の技法およびそれを実現するためのデバイスなどについての知識が不足していた。また、能動的学修について他の教員との意見交換をする機会もあまりなかった。しかし今回の講座を経験し、能動的学修の意義を学ぶことから始まり、能動的学修を促すシラバスやルーブリックの作成、グループワーク、ブレインストーミングやアイスブレイクのテクニック、さらには、これまでほとんど実践することがなかった学内外での体験学修まで、具体的な事例および全国の教員の取り組みを学ぶことができた。また、そこで学んだ技法のうち、「ワールドカフェ」などすぐに実践することができたものも少なくない。講座の集大成として、それまでに学んだことを活かした授業デザインを他の受講者の前で発表する機会もいただいた。学問分野が異なる、初対面の方々とグループとして学んだが、能動的学修について各自が抱える課題が意外にも共通点が多く、分野を越えて学び取れることが多かった。

この講座を通じて、私の能動的学修について客観的な評価を得ることができた。また、最新の技法および全国の各教員の先進的な取り組みを知ることができた。今後の教員としての理想とすべき授業像を持つことができ、非常に有益で貴重な体験となった。

※「能動的学修の教員研修リーダー講座」の 2019 年度の開催要領は、次のとおり

日時　第 1 回 2019 年　8 月 24 日（土）　9:30～17:30
　　第 2 回 2019 年　9 月 28 日（土）　9:30～17:30
　　第 3 回 2019 年 10 月 26 日（土）　9:30～17:30

会場　アルカディア市ヶ谷（私学会館）東京都千代田区九段北

詳細は次のサイトから閲覧できる。

一般社団法人　全国大学実務教育協会　URL: http://www.jaucb.gr.jp/

３．研修会

3-1　現状

本学ＦＤ研究部会の取り組みとして、教育に関する研修会の開催がある。これらは、主に「学内研修会」「学外研修会」「新任・昇任教員研修会」の３つの形で展開している。また、本学では、ＦＤ研究部会とＳＤ推進委員会が独立して活動しているが、本年度の研修会では、ＦＤとＳＤを合わせた研修会も一部開催している。

本年度実施した学内でのＦＤ研修会は、下記に示す(1)の通りである。これらは、『平成 29 年度ＦＤ研究部会活動報告書』において指摘された改善点、すなわち「本学の教員を講師とする研修会」や「学外にも受講を呼びかける研修会」、「発達障害等の障害学生支援・配慮についての研修会」、「デジタルツール利用についての研修会」の実施増と共に、より参加者の増加を図る必要性を考慮して企画実施を行った。

また、(2)には学外での研修会として、全国からの参加者を集めるＳＰＯＤ（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）主催のフォーラムを、(3)には今年度に新装実施した新任・昇任教員研修会を示す。そのほか、(4)には参加支援を行ったＳＰＯＤコア校主催新任教員研修を示す。

(1) 学内研修会

第１回ＦＤ研修会（第１回新任・昇任教員研修と同時開催）

・日　時：4 月 21 日(土) 10:00 ～ 16:00
・演　題：「本学の学習支援システム LMS（G Suite for Education）の研修」
・講　師：理工学部准教授　小林　郁典、情報センター　松田　和也、松井　康
・会　場：徳島キャンパス　25 号館（メディアセンター）3 階メディアラボ
・参加者：徳島キャンパス　１名　香川キャンパス　０名　合計　１名

第２回ＦＤ研修会（ＦＤ／ＳＤ対象）（ＳＰＯＤ遠隔配信）

・日　時：9 月 4 日(火) 10:00 ～ 12:00
・演　題：「３つのポリシーの開発と一貫性構築手法」
・講　師：小林　直人（愛媛大学学長特別補佐　教育企画室長）
・会　場：徳島キャンパス　25 号館 4 階　スタジオ型講義室（遠隔配信）
　　香川キャンパス　図書館 3 階　ＡＶホール（遠隔配信）
　※台風のため中止、徳島キャンパス　10 月 26 日ＤＶＤによる研修会
　　香川キャンパス　受講希望者にＤＶＤ回覧
・参加者：徳島キャンパス 3 名　香川キャンパス 5 名　合計 8 名

第３回ＦＤ研修会（ＦＤ対象）（ＳＰＯＤ遠隔配信）

・日　時：9 月 4 日(火) 13:00 ～ 15:00
・演　題：「大人数講義法の基本」
・講　師：小林　直人（愛媛大学学長特別補佐　教育企画室長）
・会　場：徳島キャンパス　25 号館 4 階　スタジオ型講義室（遠隔配信）

香川キャンパス　図書館 3 階　ＡＶホール（遠隔配信）
※台風のため中止、徳島キャンパス　10 月 26 日ＤＶＤによる研修会
香川キャンパス　受講希望者にＤＶＤ回覧
・参加者：徳島キャンパス 2 名　香川キャンパス 3 名　合計 5 名

第４回ＦＤ研修会（全学ＦＤ研修会）
・日　時：9 月 18 日(火) 合同教授会の終了後　16:30 ～ 17:30
・演　題：「防災・減災及び防災教育における大学の役割」
・講　師：栗田　充治　（亜細亜大学学長）
・会　場：主会場　徳島キャンパス　2 号館　アカンサスホール
副会場　図書館　3 階　ＡＶホール（遠隔配信）
※全学ＦＤ研修会として、実施。
欠席者には、Web における視聴研修を実施。
・参加者：徳島キャンパス 175 名　香川キャンパス 81 名　合計 256 名

(2) 学外研修会（ＳＰＯＤ：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）
SPOD フォーラム 2018「教職員のミニマムエッセンシャルズを考える」
・開催日：平成 30 年 8 月 29 日(水)～8 月 31 日(金)香川大学 幸町北キャンパス
・参加者：徳島キャンパス 16 名　香川キャンパス 9 名　合計 25 名

(3) 新任・昇任教員研修会
・対象教員：徳島キャンパス　31 名　香川キャンパス　12 名　合計　43 名
第 1 回　平成 30 年 4 月 21 日(土) 徳島キャンパス 25 号館 3 階メディアラボ室
10：00～10：10　「新任・昇任教員研修について」
10：10～12：00　「本学に導入済みの学習支援システム LMS の紹介（G Suite for Education の機能紹介）」
12：00～13：00　「学長と新任・昇任教員との意見交換会」
13：00～14：30　「学習支援システムを利用した授業体験（設定方法、利用方法）」
14：40～16：00　「学習支援システムを利用した授業設計（担当授業での LMS の利用検討）」

第２回　平成 30 年 5 月 12 日(土) 徳島キャンパス 2 号館 2 階アカンサススタジオ
10：00～10：10　「本日の研修について」
10：10～10：40　「アクティブラーニングと学生の多様性　－発達障害学生への配慮から－」
10：40～11：00　「小さな一歩から始めよう　ＦＤ活動への取り組み」
11：00～12：00　「初任者教員研修で学んだこと－授業デザインから始める－」
12：00～13：00　「参加者の意見交換会」
13：00～14：30　「アクティブラーニング型講義を体験してみよう」
14：40～16：00　「誰のため、何のためのアクティブ・ラーニングか」

(4) ＳＰＯＤコア校主催新任教員研修会

①徳島大学「授業設計ワークショップ」（通い型）

・開催日：平成 30 年 6 月 16 日(土) ～ 6 月 17 日(日)

・参加者：徳島キャンパス　1 名　香川キャンパス　1 名　合計　2 名

②愛媛大学「授業デザインワークショップ」（合宿）

・開催日：平成 30 年 6 月 30 日(土) ～ 7 月 1 日(日)

・参加者：徳島キャンパス　0 名　香川キャンパス　1 名　合計　1 名

③高知大学「学生の学びを支援する授業準備ワークショップ」（通い型）

・開催日：平成 30 年 9 月 4 日(火) ～ 9 月 5 日(水)

・参加者：徳島キャンパス　0 名　香川キャンパス　1 名　合計　1 名

④香川大学「よりよい授業のためのＦＤワークショップ」（合宿）

・開催日：平成 30 年 9 月 13 日(木) ～ 9 月 14 日(金)

・参加者：徳島キャンパス　0 名　香川キャンパス　1 名　合計　1 名

※参加者の報告書を、8 頁～11 頁に掲載。

3-2　点検・評価

学内の研修会については、ＳＰＯＤ遠隔配信の研修会において、昨年度同様参加者の少なさが見られた。そこで第 4 回ＦＤ研修会では、「防災・減災及び防災教育における大学の役割」として、教員に参加を義務づけた。さらに欠席者に対しては、Web 配信も行い、四国に迫り来ると言われる南海トラフ地震に対する啓蒙を、ほぼ全教員に対して行ったと言えよう。今後は、学生とも協同した災害への備えになることを願っている。

新任・昇任教員研修会については、対象の教員（徳島キャンパス 31 名、香川キャンパス 12 名）を一堂に集めて研修を行い、本学理工学部 小林郁典准教授による実践的なデジタルツールの授業応用についての実技指導を行った。さらには近年のトピックスである発達障害学生支援およびアクティブラーニングについての体験研修等も組み入れた。本研修会参加者のアンケート回答では、「アクティブラーニングを用いた授業実践の話や授業体験ができたことは有意義であった。大学教育の意義、あり方を理解できた。」、「［授業を行う目標］という視点が重要と思いました。考えさせる、感じる授業にしたいと思います。」、「これまで企業に在籍していたので、大学教員として目指す方向が見えてきた。」等のよろこびの声が聞こえ、学長および他教員との良い交流の場となったことがうかがえる。

3-3　改善計画（改善点）

上述の様に、ＦＤ研究部会での議論と工夫を重ね、年々より良い研修会となるように企画を改善している。今後とも、時代に即した研修会の開催と共に、参加者の増加を図り、参加者への効果を計る必要があると考える。また、大学全体が一丸となってスムースな学生教育を進める上では、ＦＤとＳＤの協同も一考であろう。

（ＳＰＯＤコア校主催新任教員研修会参加報告書）

①徳島大学「授業設計ワークショップ」（6 月 16 日～17 日）参加報告

香川薬学部薬学科　中妻　彩

新任・昇任教員研修の一環として、平成 30 年度徳島大学全学ＦＤ推進プログラムに基づく「授業設計ワークショップ」（SPOD）に参加した。本ワークショップでは、シラバスと授業計画の作成方法の基本的知識とスキルを修得することと、参加者全員が模擬授業を実施して授業検討会を行うことで、実践的な教育力の向上と、グループワークを通じた教員同士の相互交流を図ることができた。

まず、ワークショップに参加する前に、(1)アクティブラーニングおよび成績評価の仕方に関する e ラーニング教材の視聴、(2)シラバスの作成方法に関する教科書を読む、(3)自身の担当科目のシラバスおよび授業計画書の作成、(4)授業計画書の中から 10～15 分程度の模擬授業の準備、以上 4 つの事前ワークが課された。

ワークショップ 1 日目は、事前ワーク(1)をもとに知識の確認を行う小テストを実施した後、アクティブラーニングや成績評価の実践方法やこれらを実施する上での課題をグループ内で共有することで、参加者自らがアクティブラーニング 1 つの手法である反転授業を体験した。学生の学習を促進し、思考力を養うためには、講義型授業だけでは限界があり、アクティブラーニングを取り入れることは有効である。しかし、様々なアクティブラーニングの特徴やメリット・デメリットを知り、自身の授業の目的、クラスサイズ、授業時間、学生の学力などに合わせて、適切な授業方法を選択することが重要である。徳島大学では、実際に実践された授業方法を、専門分野やクラスサイズで分類した事例集を作成し学内で公開している。本学でもこのような取り組みを取り入れることで、教員の授業設計を助け、授業の質的向上を図ることが可能ではないかと感じた。

2 日目は、参加者全員が模擬授業を実施し、授業検討会を行った。本学ではすでにシラバスの作成に力を入れており、また、Google Classroom を活用してアクティブラーニングを実践する環境が整っているため、シラバス作成や模擬授業に取り入れたところ、徳島大学の先生からご高評いただいた。しかし、香川キャンパスの Wi-Fi スポットは講義室から遠く、授業中に Wi-Fi を利用したアクティブラーニングを実施することができないため、学内のインターネット環境の改善を強く望む。

②愛媛大学「授業デザインワークショップ」（6 月 30 日～7 月 1 日）参加報告

香川薬学部薬学科　久保山和哉

本ワークショップでは、授業の構想（ニーズの把握）・シラバスの作成（明確な目的と目標の設定）・コース（科目全体）とクラス（1 回の授業）の設計・実施技術（適切な授業方法）・評価（シラバスで示した目標に沿った適切な評価）に関わる一連の過程を、4 人 1 組のグループ作業として体験し、参加者による相互の話し合いを経て、それに関する能力を身につけることを目的とした作業を行った。

ワークショップ自体においても、全体を通して、およびそれぞれのセッション毎に明確な目的が定められており、また、各ミニ講義やグループ作業の導入時には到達目標が示されることにより、学習する動機付けと修学後のアウトプットが自然にできる工夫が成されており、大変参考になる経験を得ることができた。

また、「料理や音楽においては、その素材（食材や曲）に加えて方法（調理法や演奏法）も重要視されるにも関わらず、教育においては、その素材（高度な講義内容）ばかりが尊重されて方法（伝える技術や考えてもらう技術）が置き去りにされがちであることに早く気付かなくてはならない」との考えさせられる言葉があり、特に印象に残った。

③高知大学「学生の学びを支援する授業準備ワークショップ 」（9 月 5 日）参加報告

香川薬学部薬学科　桐山　賀充

高知大学において学生の学びを支援する授業準備ワークショップに参加した。

3～4 人のグループに分かれて、最初に、アイスブレイキングとして、各々の好きなことがらを提示し、説明した。次に、講義に対する学生のアンケートの好意的な意見と不満や改善を要求する意見をグループ内で大まかに集約し、学生が講義に対して何を求めているかを認識できるようにした。その後、シラバスは、その機能を理解した上で活用できるようにすることが必要であること、学生が授業外学習をできるよう具体的な目標を記載することが必要であるとレクチャーを受けた。

その後、コースデザイン、クラスデザインおよび授業形態についてのレクチャーを受けた。コースデザインとは、科目全体の設計で、シラバスの作成、15 回の学習の流れの考慮および授業方略と評価方法の選択と適用であり、クラスデザインとは、1 回の授業の設計で、学習効果の明確化および授業方略と評価方法の選択と適用であることが説明された。また、コースデザインでは、授業外学習、授業形態および関連する科目との関係性を考慮する必要があるとレクチャーを受けた。その際に、必要な授業外学習時間や関連科目についてグループ内で話し合った。

授業形態に関しては、アクティブラーニングについてレクチャーが行われた。アクティブラーニングでは、課題達成型と自己探求型があり、課題達成型は結果に至るプロセスが重要であり、そのプロセスと結果を振り返ることでさらに深めることができること、自己探求型は自分の考えを他者との対話から学び内省することで自分の考えを前進させることができることであると説明を受けた。最後に、成績評価の目標と方法に関してのレクチャーでは、目標タイプに対応した評価を行い、評価基準をあらかじめ明示し、シラバスに明記することが説明された。さらに、ルーブリック評価も例を挙げて説明を受けた。

最後に、各自が自分の担当講義のシラバスを作成し、ホワイトボードに張り出し、全員が歩き回って各自が作成したシラバスに関する評価を付箋紙に書いて貼っていった（ウオーキングギャラリーという方法）。その後、4 人ほどのグループになって、付箋紙に貼られた他の人からのコメントを基に自己評価とグループ内でのシラバス

の作成に関する総括を行った。今後のシラバス作成や授業の準備に活用できるような有意義なワークショップであった。

④香川大学「よりよい授業のためのＦＤワークショップ」（9 月 13 日～14 日）参加報告

香川薬学部薬学科　小林　隆信

9 月 13 日～14 日に休暇村讃岐五色台で合宿形式で行われた香川大学新任教員研修会 第 9 回 『よりよい授業のためのＦＤワークショップ』に参加しました。本ワークショップは、授業を担当するにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学ぶことを目的としたもので、具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループワークとして体験し、参加者相互の話し合いを経てそれに関する能力を身につけるものです。到着直後からプログラムが開始され、1 日目の終了が 21：00、2 日目の開始が 8：00 からと、過密なスケジュールで行われました。

まず、グループ分けが行われ、20 名の参加者が 5 名 4 グループに分けられました。このグループ分けには、専門分野に偏りが出ないように、また、課題から等距離になるようにあらかじめ決められていたようです。グループワークがスムーズに進められるように、最初にアイスブレイキングとして、グループ内で自己紹介や簡単なゲームを行った後、最初のグループワークとして「学生の考える良い授業」が行われました。授業に対する学生のニーズを把握するために、実際に学生の意見の書かれた付箋のグルーピングを行い、そこからグループとして目指す授業の方針を決めました。我々のグループは、「学生参加型」、「評価基準の明確化」、「授業では、前回の振り返りと次回の予告をすること」、「動画や写真などを利用した授業を行うこと」を方針として決めました。

続いて、「シラバスの書き方」という講義にて目標設定の立て方、授業計画の立て方などをレクチャーされ、実際に課題に対するシラバス作成をグループで行いました。我々のグループの課題は「お遍路」をテーマに全学共通科目として 90 分×15 回の授業を行うものでした。その後、「学生参加型授業の技法」、「よりよい学習評価のために」という講義をうけ、具体的にアクティブラーニングの技法や学生のための学習支援としての評価方法などを学びました。続いて、直前の 2 つの講義で学んだことを反映しながら、シラバス作成の続きと 1 回分の授業計画の設計をグループで議論しながら進めました。

夕食前に、そこまでに作成したシラバスに関して、中間報告として発表を行い、講師陣から指導を受けました。シラバスは学生との契約書であり、そこには授業の目的、目標、評価方法などを具体的に明記することが必要とされると講義を受けていましたが、どのグループもどこかが不十分であり、指摘を受けていました。また、私の所属したグループでは、校外学習をするためには保険加入が必須になることもシラバスに明記する必要があるとの指摘を受けました。夕食後には、これらの指摘を踏まえて修正を 21:00 まで行いました。

翌日は 8:00 から昨日の続きを行い、授業 1 回分の冒頭 15 分を模擬授業として、グループの代表者が実際に行いました。我々のグループは「バーチャルで巡る四国

八十八か所」として、授業を通してバーチャルマップを作成し、これを用いて世界に文化などの魅力を発信する方法を学んでいくことを計画しました。これまでにも「お遍路」をテーマに本研修会は行われていたようですが、我々のグループのようなバーチャルを取り入れたものは例がなく、面白い着眼点であり、良い授業設計ができていると講評されました。

今回の研修を通して、授業に対する準備、どこまで具体的にシラバスに書くのか、そのシラバスをどのように利用するのか、それをどのように学生に伝えるのか、また、実際の授業においても、それぞれの方法の目的や使い方、評価のやり方など、これまで曖昧だった部分の基本が理解できました。さらに、香川県内の他大学の先生方と交流することができ、他分野での考え方や他大学の状況などに触れる機会が得られました。日程としては過密スケジュールで大変でしたが、今後に役に立つ有意義な研修会でした。

４．全学授業評価アンケート

4-1　現状

平成 27 年度現在、学生による授業評価を実施した大学は、国公私立全体で 776 大学（約 99.3%）である（文部科学省 2017）。本学では平成 20 年度前期にはじめて、授業改善のための基礎資料を収集する目的でアンケート形式により学生の授業評価を実施し、平成 25 年度からハイブリッド授業評価アンケート方式を導入している。マークシート方式でアンケートを行い、その結果を電子化し、過去の結果との経年比較、全体平均との比較、クロス集計など結果の分析が可能となっている。また、各授業担当教員に、アンケートの集計結果に対するコメントや翌年度以降の授業に向けた対応を「アクションプランシート」として作成することを依頼している。記入は Web 上で行え、アンケート結果とアクションプランシートを合わせて学生に公開できるシステムになっている。

4-2　点検・評価

(1) アンケートの実施状況

平成 30 年度は、クォータを含む全期で実施した。実施期間は、第 1 クォータが 5 月 22 日から 6 月 5 日、前期と第 2 クォータが 7 月 10 日から 31 日、第 3 クォータが 11 月 7 日から 21 日、後期と第 4 クォータが平成 31 年 1 月 7 日から 2 月 6 日までである。

実施率は表 1 のようになっている。前期、92.8%・後期、98.3%と高い実施率となっているが、実施できていない科目もあり、今後、実施率 100%を目指したい。

表 1　授業評価アンケート実施状況（平成 30 年度）

	前期			後期		
	総科目数	実施科目数	実施率	総科目数	実施科目数	実施率
徳島Ｃ	723	661	91.4%	801	787	98.3%
香川Ｃ	334	320	95.8%	363	357	98.3%
全　体	1057	981	92.8%	1164	1144	98.3%

(2) フィードバックの状況

教員によるアクションプランシートの作成は、表 2 のようになっている。アクションプランシートが未記入の場合は、担当教員に記入を催促する対応をしている。前期は一部連絡が伝わらないなどの問題により、記入率がやや低調であったが、後期には改善している。引き続き、記入率 100%を目指したい。

表 2　アクションプランシートの記入率（平成 30 年度）

	前期	後期
徳島Ｃ	90.3%	98.7%
香川Ｃ	96.0%	99.3%
全　体	92.2%	98.9%

授業評価の集計結果とアクションプランシートの開示期間は、平成 30 度前期のものが平成 30 年 10 月 17 日から令和元年 9 月 27 日まで、平成 30 年度後期のものが平成 31 年 4 月 5 日から令和 2 年 4 月 17 日までである。また、開示範囲は学内のみとし、キャンパス毎にパスワード付きの PDF 形式のファイルで、学内サーバーにより公開している。

4-3　改善計画（改善点）

本年度の授業評価アンケートは、90%を超える実施率であった。これは、貴重な授業時間を割いてアンケートにご対応いただいた先生方の、ＦＤ活動に対するご理解と熱意の表れであると考える。アンケート結果に基づく授業改善もはかられてきており、１０年が経った現在では、全体的に高い評価で推移してきている。

しかし、一方で課題も明らかになっている。例えば、「学生からの意見（自由記述欄に記載された内容）がくみ取れていない」「運用に多大な手間とコストがかかっている」などが挙げられる。また、他大学の動向として、授業アンケートを学習の一部に位置づける傾向も見受けられるようになった。

そこで、ＦＤ研究部会ではアンケートの在り方について検討し、次年度より、Web による新方式の「全学授業アンケート」に移行することにした。新しいアンケートでは、学生自身が学びの振り返りや自己評価を行って学習態度や方法を改善したり、教員が受講生全体の自己評価を基に授業内容や方法を改善したりすることを目的としている。次年度前期は施行期間となるが、この新しい「全学授業アンケート」が、学生の学習強化や教員の授業分析に役立ち、本学の教育の質の向上に寄与することを期待したい。

５．研究授業

5-1　現状

「研究授業」は、平成 20 年度後期より、徳島・香川両キャンパスの全学部において実施しており、今年で 11 年目となる。平成 30 年度は、徳島キャンパスで 17 科目（前期 7 科目、後期 10 科目）、香川キャンパスで 14 科目（前期 9 科目、後期 5 科目）、両キャンパスで合計 31 科目の実施となった。

各学期の実施回数は、各学部及び各学科の教員数及び講義数の実情を踏まえながら決定している。学科によっては、「目標設定型」と「オープンクラスウィーク」を選択し実施している。

(1) 目的

研究授業を開始した当初より実施しているのは「教員相互の授業参観型」である。教員は授業を参観し、授業改善のために参考になるもの、取り入れられるものを見つけ、自分自身の授業に活かしていくことが目的となっている。各教員の教授法の向上と学生の理解力や思考力の向上を目指しており、授業担当者の教授法に対し、悪い点を指摘するためのものではない。

「目標設定型」は平成 24 年度より導入しており、あらかじめ教授方法や授業運営上の改善点を設定し、定めた期間の中で調査・研究を行うものである。効果的な授業技術の掘り起こしとそれらの共有が主な目的となる。

「オープンクラスウィーク」は、平成 23 年度より理工学部で試験的に導入し、翌年から希望する学科も実施するようになった。ある一定期間にいずれの講義でも自由に聴講できるように期間を設けている形式である。

(2) 実施方法

各学部及び学科は、「教員相互による授業参観型」、「目標設定型」、「オープンクラスウィーク」の内いずれか、もしくは複数の研究授業を選択することができる。実施頻度は各学部及び学科に委ねている。

「教員相互による授業参観型」は、学期の始めに各学部及び学科の授業担当者と研究授業を補助する授業協力者を定め、授業担当者は研究授業を対象とする科目及び実施日を決める。実施科目と実施日についてはＦＤ研究部会が情報をまとめ、事務局が「研究授業予定」一覧表を作成し、全学の教員に周知した。周知方法は、従来より行っている一覧表による周知に加え、昨年度より始めた二つの新たな手段を取っている。一つ目は、一覧表に「教授法」の項目を加え、全教員が事前に教授法を知ることができるようにしたもの、二つ目は事務局が研究授業の科目毎に全教員に対してメールを送信し周知を行うものであり、各研究授業科目への興味と参加の動機付けとなることを目指している。

参観範囲は、所属学科に関係なくどの科目でも参観可能である。研究授業の進行及び記録は授業協力者（あるいは学部、学科の評価・ＦＤ委員会）が行い、原則として１講時 90 分の内、授業開始から 60 分を授業参観とし、残りの 30 分を授業担当者、授業協力者及び授業参観者による意見交換会の時間とした（授業 90 分、意見交換 20 分の場合もある）。意見交換会では「(1) 目的」にある研究授業の主旨に基づき討議を行った。研究授業実施後は、2 週間以内に別紙の様式（図１）に授業担当者と授業協力者（あるいは学部、学科の評価・ＦＤ委員会）によって、研究授業記録を作成することとした。研究授業記録はＦＤ研究部員を通してＦＤ研究部会へ提出される。その他「教員相互による授業参観型」には、新入生宿泊セミナー研修内で実施したグループワークのファシリテート（公開授業）や、文理学での講義についても研究授業の対象とした。

「目標設定型」は、授業技術の向上のためテーマや新しい取組み等を目標に挙げ、その目標を達成するために必要十分とされる実施期間を設定し、各学期始めに学内で公表する。その目標は期間内に達成可能なものを設定しなければならない。実施期間終了後は、代表者はすみやかに実施した取組みについて研究授業記録（図 1）を作成し、ＦＤ研究部会に提出する。

「オープンクラスウィーク」は、ある一定期間にいずれの講義も自由に聴講できるよう期間を設けた形式である。今年度は文学部文化財学科において、実施期間を平成 30 年 6 月 11 日（月）～15 日（金）の 5 日間とした。（1 科目のみ 22 日に実施。）評価は、参観した教員によるコメントと参観者数をＦＤ研究部会委員へ報告した。

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学　部		学　科	
授業者		科目名（シラバス番号）	（　　）
授業協力者		実施教室	
実施日時	平成　年　月　日　曜日　講時		
対象学生		受講学生数：　名	
教長法			
授業テーマ			
研究授業内容自己評価			
研究授業参観者の意見・感想			
授業参観教員数	名		

研究授業（目標設定型）記録			
学　部		学　科	
実施代表者			
実施期間	平成　年　月　日　～　平成　年　月　日		
目標の説明			
対象学年または科目	受講学生数：　名		
具体的な取組み方法			
結果			
協力教員数	名（内訳　　）		

図１　研究授業記録様式

5-2　点検・評価

表 3 に、今年度と過去 8 年間の学部、学科別の研究授業実施数と研究授業の参観者数の推移を示す。オープンクラスウィークに実施された科目も含めた「教員相互による授業参観型」と「目標設定型」を合わせた実施科目数はその年により変動があり、今年度は 31 科目であり、昨年度と比較して増加した。これは、オープンクラスウィーク期間中に「教員相互による授業参観型」の研究授業科目が 6 科目あったことが理由として考えられる。しかし、1 科目当たりの参観者数は昨年度と比較して増えている学科がある一方で、特に前期は参加者数が減少しており、年間参加者総人数は微減した。

「教員相互による授業参観型」には、新入生宿泊セミナー研修内で実施したグループ

表3　学部、学科別の研究授業実施数と研究授業の参観者数（名）の推移

年度		平成22 2010		平成23 2011		平成24 2012		平成25 2013		平成26 2014		平成27 2015		平成28 2016		平成29 2017		平成30 2018	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
年間研究授業実施数		17	12	16	16	17	16	11	17	4	15	15	18	10	18	10	16	16	15
香川薬学	薬学科	14	14	32	25、18	25、22、26	19、25、26	15	19		13	22	18	27	21	20	15	17	22
文学部	日本文学			9			9			9			9			7			8
	英語英米文学	4			2			3			4			2			3		
	文化財		26			5			23			5			5			6(ｵｰﾌﾟﾝｸﾗｽｳｨｰｸ)	
	宿泊セミナー	平成23年より研究授業として実施		12		14		8		6		5、4		4、5		4		5	
	学部内合計	4	26	21	2	19	9	11	23	15	4	14	9	11	5	11	3	5	14
理工学部	機械創造	10		7			6		4		2		5		4		3		
	電子情報		4		5		目標設定型		目標設定型		目標設定型		3		6		3		2
	ナノ物質		6	4			4	5			目標設定型		目標設定型		目標設定型		目標設定型		目標設定型
	臨床工学	11			2	平成24年保健福祉学部へ移行													
	学部内合計	21	10	11	7		10	5	4		2		8		10		6		2
薬学部	薬学科	7	5	7	8	5	2	7	4	7	7	未提出	未提出	未実施	4	4	4	8	7
人間生活学部	人間生活	5			2		1		2		2	3			3		3		2
	食物栄養	3			4	4			2		1	4	2		1	7	7		7、8
	心理	2		5		2			1		2	2	3	6	3	4		1	3
	児童	6			5		1		2		2	5	1	1	1	4	4		3
	ﾒﾃﾞｨｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	3		4		目標設定型	4		目標設定型		1		4	1			2		2
	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ	4		3		5			2		1	3	2		2		2		
	学部内合計	23		12	11	11	6		9		9	17	12	8	10	15	18	1	25
総合政策学部	総合政策	8	5	6	6	8	4	5	6		6	5	10		3	3		文理学 両キャンパス	3
音楽学部	音楽	2	3	3	4	3	3	3	0		目標設定型	0	2	1	3		6	2	
保健福祉学部	臨床工学	平成24年から理工学部から保健福祉学部へ移行				8			6				5				3		
	診療放射線						7	5							0				0
	人間福祉	2	3	3	1	1		1	1			1		4	4	4	4	3	2
	理学療法		1	1	4	3		2	0			1	1	0	1				
	看護	14	12	6	6	8	8	8	8	8	13	9	12	7	8	5	5	5	目標設定型
	口腔保健																平成29年開設	9	
	学部内合計					20	23	16	15	8	13	11	18	11	13	9	12	17	2
短期大学部	保育												5						
	生活科学				3								7				1		
	商科	2		3											5				
	言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	4	3	5			目標設定型												
	音楽		4		3														
	学部内合計	6	7	8	6	目標設定型							12		5		1		
前・後期別　参加者数		101	86	110	98	139	119	62	80	30	54	69	89	58	74	62	65	56	69
年間参加者総人数		187		208		258		142		84		158		132		127		125	
1科目当たりの参加者数		**5.9**	**7.2**	**6.9**	**6.1**	**8.2**	**7.4**	**5.6**	**4.7**	**7.5**	**3.6**	**4.6**	**4.9**	**5.8**	**4.1**	**6.2**	**4.1**	**3.5**	**4.6**

ワークのファシリテート（公開授業）や、文理学での講義についても研究授業の対象としており、今年度は文学部と総合政策学部から報告を受けている。

表 4 には、各学科の授業参観による参観者の意見と目標設定型の研究授業の効果を、一部抜粋したもの示している。各学部及び学科から提出された報告書によれば、「アクティブラーニングの一つであるチーム基盤型学習（TBL）は、能動的学習者に変容させる授業法であることが、この授業を通して理解できた。」との意見が挙げられた他、学科によっては授業改善に向けられた「内容が少し多かったのでさらに内容を洗練するとなお効果的になると考えられる。」などといった意見も出されていた。

表 4　各学科の授業参観による参観者の意見と目標設定型の研究授業の効果

［教員相互による授業参観型］　各学科の授業参観による参観者の意見 研究授業報告書より一部抜粋：●好意的な意見　■改善を求める意見（なお、全記録は別CD資料）
（香川薬学部薬学科） ● パワーポイントの図が非常にわかりやすかった。 ■ 学生の手元に資料がないため、授業が分かりづらい、専門用語が分からないなど、講義全体が分かりづらかった。何を覚えて、何を理解すべきか、何がポイントであるかを明示する必要があると思われる。 （文学部全学科） ● 学生間のコミュニケーションが活発になるようにと先生方の創意工夫が随所に感じられました。 ● クイズは文学への関心を高めることや、郷土への愛着や地域への関心を高めることなどが意図されており、良く工夫されている。 （文学部日本文学科） ● 日本語史をなぜ学ぶのかという問題設定から学生の興味や関心を喚起するという意図は開講授業に相応しいと思う。 ■ 中途から授業の流れが単調になったので、学生へ作業させたり、声を拾ったりする工夫が必要だと思った。 （理工学部機械創造工学科） ● 機械力学の基本となる運動の法則をていねいに説明し、具体例を挙げて学生の理解を促す授業でした。 ● 学生の興味がありそうな話題も例にあげて、講義されていたので、理解が増したのではないかと感じた。 （薬学部薬学科） ● チーム単位の形をとって、全員参加しているのが良い。 ■ 式の理解には、時間が足りないように思う。PPT などを使って説明すると、もっと良く分かる部分もあるかもしれない。 （人間生活学部人間生活学科） ● 興味、関心を引き出し全員に目的意識が持てるように、生活に即して解説しているのが良かった。

（人間生活学部心理学科）

● 前回の振り返りが効果的・導入として良い。

● 学生が楽しそうに実習しているのが印象的だった。

■ 教室が狭いのが残念、もう少し広ければもっとのびのびと作品作りを楽しめるのではないかと思う。

（人間生活学部児童学科）

● パソコンや電子黒板、さらには学生のスマートフォンが有効に活用されていた。

● 最後に次週の学習内容の予告があり、予習がやりやすいよう工夫されていた。

（人間生活学部メディアデザイン学科）

● 統計学の知識習得は文系の学生にとってハードルが高いが、「商品開発」という興味のある内容だったため、学生が積極的に取り組んでいた。

■ プレゼンテーションの環境（プロジェクターなど）が悪かったため、次回からは改善するべきである。

（人間生活学部食物栄養学科）

● 社会的背景や今後の管理栄養士の役割、教員の現場経験を交えたことにより、学生の職業観を養う要素もあり良いと感じた。

■ 講義で扱う内容量が多いので、振り返りの時間を授業内で設定するとよい。

■ 時間内で説明されない資料があったので、一言でも言及されるとよかった。

（総合政策学部総合政策学科）

● 授業開始時刻と同時に、宿題の記載を求めるミニッツペーパーの配布から始めたことが新たな試みと思った。

■ 板書の仕方に工夫が必要である。

（音楽学部音楽学科）

● 課題として一人一人が出してくる物（作品）、その一つ一つの作品に敬意を示しているという先生のお言葉が印象的であった。

● 学生がリラックスした様子で受けている。

（保健福祉学部看護学科）

● 内容に興味を持たせるために身近な話題を提供しており工夫されていた。

■ 内容が少し多かったのでさらに内容を洗練するとなお効果的になると考えられる。

（保健福祉学部人間福祉学科）

● 学生への配布資料には教科書の記載ページを記入のうえ、要点事項がまとめられてあり、たいへんわかりやすい資料であった。

● 独自の講義資料を作成している。文中に解説も含み懇切丁寧な資料作りをしている。

■ 学生のレベルに合った講義が大切で、そのために学生レベルを把握する必要がある。

（保健福祉学部口腔保健学科）

● アクティブラーニングの一つであるチーム基盤型学習（TBL）は、能動的学習者に変容させる授業法であることが、この授業を通して理解できた。

■ 初回 TBL であったこともあり、予習を軽く済ませている学生も見受けられ、TBL が機能していないチームがあったことは少し残念であった。

［目標設定型］　具体的効果（研究授業報告書より一部抜粋）
（保健福祉学部看護学科）平成30年11月15日 目標：訪問看護の演習を通して在宅看護に必要な看護師の技術と態度を考える。 結果（効果）： ● アクティブラーニングへの取り組みは非常に良かった。演習後のディスカッションで学びが深まると思われる。 ● 今後は授業の到達目標の設定、十分な事前の準備、学生への説明をしておくことで授業時間の管理ができ、さらに効果的なアクティブラーニングができると考える。 （理工学部ナノ物質工学科）プロジェクトラボＢ 目標：卒業研究の目的を理解し、考えを表現する能力を身につけさせる。 結果（効果）： ● 課題や問題点や卒業研究を行う意義について意識を持つことができた学生と、自分は何ができていないか？課題を見つけた学生がいた。 ● 数年間行っている取り組みで、各研究室とも教員のスキルもアップし、教育効果も高くなっていると思われる。 ● 卒業研究や就職活動をすぐに始めるには十分なレベルに達していないとの意見もあり、発表内容や形式を統一し、簡単な要旨をつくるなど工夫をすることでより一層の効果をだせるのではないかとの意見があった。

表 5 では、文学部で実施されたオープンクラスウィークにて、参観者がいた科目の報告をまとめている。期間内に参観可能として解放された科目は 15 科目であり、その内 6 科目で報告を受けた。期間内の実施が難しかった 1 科目については、1 週遅らせた日程で実施された。「オープンクラスウィーク」は平成 23 年から実施開始となり平成 28 年以降は実施した学科がなかったが、今年度は 2 年ぶりの実施となった。

5-3　改善計画（改善点）

基本的な実施方法や周知方法については、次年度も同様に継続することが望ましいと考える。

「教員相互による授業参観」の研究授業は、文学部において実施されている「新入生宿泊セミナー研修内」で実施したグループワークのファシリテート（公開授業）、その他「文理学での講義」、「高校生向けのレクチャー」など、教員相互による授業参観となりうる機会も対象範囲として含めている。しかし、報告結果を見ると各学科に対して十分な周知ができていたかどうかは定かではない。次年度は改めて、各学科に向けて周知を行っていくとともに、研究授業の参観者数の増加についてもさらなる検討課題としていきたい。研究授業の重要性と意義については合同教授会や学部教授会で強く発信し続け、研究授業が各教員の教授法の向上と学生の理解力や思考力の向上に役立つように、さらに発展させていきたい。

表5　研究授業（教員相互の授業参観）記録　文学部文化財学科

期間：H30.6.11～15　15科目のオープンクラスウィーク設定

教授法：講義

授業者	科目名 （シラバス番号）	対象学生	学生数	教室	実施日時			授業テーマ	研究授業内容自己評価	研究授業参観者の意見・感想	参観教員
					月　日	曜	講				
大久保徹也	考古学概論 （10534）	文化財1年生	27名	201	H30.6.11	月	2	縄文後期から弥生時代の農耕論	縄文後期から植物性食料の確保と栽培農耕が進んでいる現状を、考古学的な視点からどのように捉えるかを講義。前回の講義内容を学生に質問し、定住するための条件を復習しながらの講義であった。考古学的な根拠として、植物遺体・農耕専用具および農耕池の3つの条件を示し検討。特に身近な香川県の遺跡を資料で配付し、興味と関心を引き出した。	生きるがための生活の道具の発明は興味深い。この道具が弥生時代から生活を豊かにするものに変わる理由を知りたかった。先生の話を熱心に聞いているが、話の内容を適宜ノートにメモする学生が少ない。板書のみのメモでは講義内容が後で記憶に残らない。文理学で板書の指導をしているが身についていないように思われる。	1名
清水　真一	建築遺産論 （11552）	文化財2年生	7名	文305	H30.6.11	月	2	建造物の復原・再現 （歴史資産の復元と問題点）	パワーポイントを用いて、配付資料を見ながら説明。少人数で静かに聞いて・きちんとメモをしている。各寺院の修復と再建の資料から、史跡などの整備事業の問題点を考察する。特に、平城宮を例に挙げて、歴史的背景や国の復元事業を考える。	どのような観点から復元するのか大変興味深い内容であった。門外漢から見ると、イメージの復元は歴史のロマンスを感じ、観光開発にも繋がると思われる。一方的な講義であったから学生の反応・質問は無く、講義の意図を理解したか感じられない。	1名
橋詰　　茂	日本文化史 （11418）	文学部2年	29名	102	H30.6.11	月	4	紙と文字の文化	筆記媒体である紙の文化について：紙のない時代は何に書いたか。粘土板・パピルス・羊皮などを例に挙げながら紙の発明を論じる。仏教の経典との関連を示しながら、平安時代の日本の紙すき産地を示す。	巡回指導しながら、学生を指名して注意を喚起しながらの講義は参考になった。学生の反応が悪いが、根気よく身近な例を示しながら、文字の文化について考えさせている。板書のできない学生が多いが、熱心に話をメモしている学生もいた。	1名
橋詰　　茂	日本史概論 （11396）	文化財1年生	28名	301	H30.6.12	火	1	戦国期の四国	朝鮮出兵の意義から関ヶ原の戦いを中心に各大名の去就を講義。東西のどちらの陣営に着くかを地元の山内一豊や生駒親正・一正親子や大河ドラマで有名な真田氏の話などを列挙。	朝鮮出兵の大名が官僚である石田三成より、戦人である徳川家康に見方をするが、家名の存続を考える大名の考えなど興味深く拝聴できた。歴史の見方を教えられる内容であった。	1名
古田　　昇	地域環境学 （11613）	文化財2年生	33名	視聴覚	H30.6.12	火	1	地域の開発ー歴史的経緯と今後	学生に3種類の色つきポストイットを配付して、香川県各地域の自然環境や人文環境を列記させて、小グループ毎に各自が選定した理由をディスカッションする。調査・分析の手法をデスクワークさせる狙いである。動機付けを明確にして作業をさせる。	一方的な講義でなく、演習を実施させて巡回指導するのは良かったと思う。学生の個々の進捗度が異なり、グループディスカッションに入れない。時間設定との絡みもあるが、活発なグループとそうでない場面もあった。長机の教室ではこの作業は難しいと感じた。	1名
古田　　昇	自然地理学 （11191）	文化財2年生	10名	視聴覚	H30.6.22 ※出張により 1週遅れで実施	金	2	モンスーンアジアの自然環境と生活	西欧の気候の特徴を、牛と羊の産地の違いなどを例に、気候によって様々なことが説明できること講義。	とてもためになる授業だった。また、「超簡単ヨーロッパ地図の描き方」を紹介されていたが、それが実に愉快だった。このような授業を毎週聞ける学生は幸せだと思う。人数が少なくてもマイクを使い、明瞭に聞き取ることができた。また、OHPを用い学生に配布したのと同じ地図に書き込む様子がそのままモニターに映し出されるので、板書するよりもリアル感があり、印象深かった。	1名

６．卒業生満足度評価アンケート

6-1　現状

本学では、卒業生（正確には、卒業時の学生に対する）満足度評価アンケートを平成21 年度から継続的に実施している。卒業生満足度評価アンケートは、学生が卒業時に、入学時から卒業までの期間における学生生活の振り返りをとおして、学生からの本学の教育に対する評価を受け、教育の充実と改善に資する資料を得ることを目的に行われ、外部への情報発信の役割も併せ持つものである。

平成 30 年度の卒業生満足度評価アンケートの評価項目は、前年度と同じものとした。よって質問項目は平成 28 年度から 3 年間変えていない。これによりすべての項目についての経年変化を観察することが可能になっている。

今年度もインターネットを利用して回答してもらうように該当する学生に依頼をかけた。平成 31 年 1 月の合同教授会において、これまでと同様に卒業生満足度評価アンケートを実施することを告知し、同時に回答用のシステムをスタンバイさせた。回答期間については各学部・学科に委ねることにしていたが、大学事務より該当する学生に対して電子メールにて回答を依頼した。さらに、各学部・学科の担当教員からも学生に対して適宜回答を依頼した。このとき、回答状況がリアルタイムでわかるように、図 2 のようなインターネット上で稼動するシステムを構築した。このシステムは各部署の回答者数をクリックすると回答を済ませた学籍番号のリスト一覧が閲覧できるようになっている。ただし、アンケートの回答内容は閲覧できない。

昨年度の実施から、回答者がスムーズにログインできない場合があることが課題として挙げられていた。これは回答者の個人認証を本学で採用している Google の認証機能を利用したことが原因であった。そこで、今年度は回答者がより簡単に個人認証ができるようアンケートシステムを構築し直した。特に個人認証を本学の情報センターの技術支援を得て、LDAP を利用した。図 3 に新しいシステムのログイン画面を示す。

Web 化によるメリットとして、自由記述欄に記載された卒業生の“生の声”を生かすことができるようになったことが挙げられる。紙媒体の場合、自由記述欄に記載されたものは、コストが莫大にかかるためリストアップされるようなことはなかったが、Web 化により自由記述欄のテキストは電子化されるため、リストアップが容易となり、卒業生の“生の声”を多くの関係者で共有し、本学の運営改善の助言として利用できるようになった。そこで、今年度からは、部局長会において、自由記述欄に書かれている内容を報告し、全学で共有している。ただし、個人を中傷しかねない内容が含まれている場合もあるので、取扱いには十分注意する必要がある。

6-2　点検・評価

卒業生満足度評価アンケートは、985 人を対象に Web 方式にて行い、648 人から回答を得、回答率 65.8%（前年度は 33.8%、前々年度は 52.1%）であった。所属別の内訳は表 6 に示す通りである。回答率が高くなった要因としては、2 つ考えられる。ひとつは回答状況が常に閲覧できるようにしたことで、担当部署および関係する教員が未回答者に適切に指示を出せるようになったこと、もうひとつは学生がログインページでつま

ずかずにスムーズに回答できたことである。

所属名	回答者数
《大学院》薬学研究科薬学専攻博士課程	1
《大学院》文学研究科博士前期課程	0
《大学院》文学研究科博士後期課程	0
《大学院》工学研究科システム制御工学専攻博士前期課程	0
《大学院》工学研究科ナノ物質工学専攻博士前期課程	0
《大学院》工学研究科システム制御工学専攻博士後期課程	0
《大学院》工学研究科ナノ物質工学専攻博士後期課程	0
《大学院》人間生活学研究科食物学専攻博士前期課程	1
《大学院》人間生活学研究科生活環境情報学専攻博士前期課程	0
《大学院》人間生活学研究科児童学専攻博士前期課程	0

図２　部署別（学科別）回答状況確認システム

図３　アンケート回答画面

全学全体の評価結果の概要を概観すると、最も高得点は、Ⅳ－４の「よき友と出会いましたか」（4.53 点）であり、例年と同様であった。次に高得点は、Ⅳ－１の「キャンパスは清潔でしたか」（4.32 点）、次に、Ⅳ－3 の「頼りになる教員に出会えましたか」（4.31 点）であった。このことから、卒業生は学生時代に良き友と教員に出会い、清潔な環境で大学生活を送っていたことを評価していることが推察される。

表６　所属別アンケート回答状況

所属名	卒業者数	回答者数	回答率(%)
人間生活学部	283	240	84.8
音楽学部	7	6	85.7
薬学部	116	67	57.8
文学部	51	40	78.4
理工学部	67	40	59.7
総合政策学部	55	33	60.0
香川薬学部	46	43	93.5
保健福祉学部	250	126	50.4
短期大学部	82	47	57.3
全体	985	648	65.8

一方、最も低い得点は、Ⅲ－７の「生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる体制は整っていましたか」（3.60 点）であった。これは前年度 2 番目に低い評価であった。次に、Ⅳ－２の「クラブやサークル活動は参加しやすかったですか」（3.62 点）であった。さらにⅤ－２の「知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか」（3.75 点）が続いている。Ⅴ－２は前年度の最下位であった。これらの低得点項目は、入試広報委員会や保健管理センター、教務委員会など他委員会や組織体との連携によって改善に資するものと考えられる。

今後、評価得点を高くしていくには、各種関連委員会や組織体間の連携を強化し、教職員が一丸となって取り組んでいくことが課題となる。資料編に、アンケートの結果を、大学全体、学部全体、短期大学部全体に分けて数値とグラフを示しているので、是非ご高覧頂き、アンケート結果を共有していただきたい。

6-3　改善計画（改善点）

(1)「ICT 技術（Web）利用」の理解と推進

卒業生満足度評価アンケートの本来の主旨を考えれば、卒業時期を迎えた学生の平常状態での本音の評価の声を聞く必要がある。平成 28 年度より、徳島キャンパスも香川キャンパスも、一律に ICT 技術（Web）を利用し、一定期間の中で、卒業予定者に回答をしてもらった。そのため、本音による生の評価の声が聞こえる回答が得られ、しかも比較検討による分析も可能になった。今後も、「ICT 技術（Web）利用」の理解と推進を進めていこうと考える。ただし、コストと ID 付与など一部の教員の負担と手間も考

慮しなければならないので、費用対効果の検討も必要となる。

(2) 卒業生満足度評価アンケート結果を教育環境や教育改善に活かすシステム構築

これまで平成 21 年度～平成 30 年度に渡り、10 年間卒業生満足度評価アンケートを行い、その結果をもとに、改善計画（改善点）をたて、卒業生満足度評価の方法論やシステムについて改善を行ってきた。そのことにより、教育環境や教育活動が少しずつ改善されてきているが、まだ十分とはいえない。

多大な費用とエネルギーを費やし実施してきた卒業生満足度評価アンケートから教育環境や教育改善に活かす事項が見出されたならば、今後は、その結果を活かすシステムの構築が課題となってくる。卒業生の満足度・不満足度を明らかにする単なるアンケートで終わっては意味がない。今後は、評価結果を活かして機能していくように、例えば、他委員会や組織体との情報共有や連携・協働など、教育環境や教育改善に活かすシステム（仕組み）を構築していく時期にきている。

７．ＩＣＴ利用による運営改善

7-1　現状

(1) 研修会・講演会のビデオ配信

本研究部会が主催する研修会・講演会は、毎年学内で開催されている。これらは教職員が参加しやすい日を選択して実施しているが、都合により参加できない教職員も少なからず存在する。また、講演内容を後日改めて確認したいという要望もある。

そこで、平成 26 年度から、講演者の許諾を得て研修会・講演会の様子をビデオ撮影し、学内ネットワーク限定で教職員がその録画ビデオを学内のパソコンやスマートフォン等の情報端末から都合の良いときにいつでも閲覧できるようにしている。平成 30 年は、平成 30 年 9 月 18 日に徳島キャンパスで開催された亜細亜大学学長の栗田充治先生による「防災・減災及び防災教育における大学の役割」の内容を講師の許可を得て、ビデオに録画し、学内限定で閲覧できるようにした。

具体的な閲覧方法は、学内ネットワークに接続しているパソコンやスマートフォンに標準でインストールされているブラウザを開き、下記 URL を入力すれば専用のサイトが表示される。

閲覧用 URL：http://fd.bunri-u.ac.jp/videos/

ビデオ配信は、原則として、講演会終了後約１週間から１年間ほど公開するよう部会で決められている。また、ビデオを再生するためには、教職員番号を入力するようにしている。

(2) 授業評価アンケート結果（アクションプランシート）の Web 公開

本学では全学的に学生による授業評価アンケートを実施している。各授業担当教員には、このアンケートの集計結果に対するコメントや翌年度以降のアクションプランの作

成（われわれはこれをアクションプランシートと呼んでいる）を依頼している。

このアンケートをはじめたときは、授業担当教員の研究室の扉にアクションプランシートを一定期間掲示するように担当教員に依頼をしていた。この方法だと、閲覧するためには学生が研究室の前まで出向く必要があるし、実際に掲示されているかどうかを本部会が把握することが困難であった。そこで、平成 24 年度から、学内のネットワークを利用して学生に対して学部別にまとめたアクションプランシートを公開した。

具体的な閲覧方法は、学内ネットワークに接続しているパソコンやスマートフォンに標準でインストールされているブラウザを開き、下記 URL を入力すれば専用のサイトが表示される。

閲覧用 URL：http://fd.bunri-u.ac.jp/eval/

アクションプランシートは、PDF 形式のファイルで公開されており、表示させるためにはパスワードの入力が必要である。学生には事前にメールでパスワードを通知し、両キャンパスのものを閲覧できるようにしている。

表 7 に、平成 27 年度から 4 年間に実施された授業評価アンケートのアクションプランシートの閲覧回数（のべ）を示す。閲覧回数は、昨年度まで 3 年間連続で増加していたが平成 30 年度は減少しているものの、平成 27 年度と平成 28 年度と同程度であった。これは、平成 29 年度が高くなった理由として、閲覧期間を途中で延期したことに伴う告知の影響で閲覧数が増えたのではないかと考えている。

表 7　アクションプランシート閲覧状況（平成 27～30 年度前期実施分）

ｷｬﾝﾊﾟｽ	学部専門／一般	のべ閲覧数			
		H27 前期	H28 前期	H29 前期	H30 前期
徳島	一般総合（学部）	18	12	30	16
	一般総合（短期大学部）	4	0	13	2
	人間生活学部	52	50	114	81
	保健福祉学部	20	32	50	23
	総合政策学部	12	9	13	12
	音楽学部	0	3	10	3
	薬学部	31	28	58	34
	短期大学部	8	9	22	5
	非常勤講師担当	6	4	16	15
香川	一般総合（学部）	16	38	27	14
	保健福祉学部	26	25	27	9
	香川薬学部	59	38	50	49
	理工学部	32	55	40	40
	文学部	23	17	16	13
	非常勤講師担当	2	10	15	8
計		309	330	501	324

(3) 情報端末による卒業生満足度評価アンケートの実施

本学では全学的に卒業を迎えた学生による卒業生満足度評価アンケートを平成 21 年度から実施している。指摘されている課題として、回答依頼者を全員一ヶ所に集めて実施することが難しいことや、実施コストが高いことが挙げられている。これらの課題の解決を試みるために、平成 26 年度から理工学部の卒業生に対して、また、平成 27 年度からは香川キャンパス全体の卒業生に対して、紙媒体での回答ではなくパソコンやスマートフォンなどの情報端末を利用した回答ができるようにシステムを開発した。この結果を踏まえ、平成 28 年度から、全学的にインターネットに接続した情報端末を利用して答えるようにした。

スマートフォンでの回答の場合、同一人物による複数回の回答を防ぐための仕掛けが必要である。これに関しては、学生が普段使用している学内ポータルサイトのログイン ID とパスワードを活用した。アンケートの実施日を従来の学位記授与式（卒業式）当日ではなく、その日までの 2 ヶ月程度を回答可能期間とした。学位記授与式当日の実施では、評価が高くなりがちであるとの推測も可能であるが、このような実施期間であれば、回答者は日常の雰囲気の中で回答することができ、より正確なものが得られると期待している。ただし、平成 29 年度と平成 30 年度の回答状況は、学位記授与式当日の回答が最も多くなった。数人の学生に尋ねたところ、1 ヶ月前というのは試験や課題などに追われていて卒業生気分にはなりにくい、回答期日が卒業式なのでそのときに回答すればいいだろうと思っていた、という旨の意見があった。

一般に、スマートフォンなどでアンケートを実施した場合、回答率は悪くなると言われている。これまでにわれわれが他大学を調査した範囲であれば、大学における全学的なアンケートでは、回答率が 20%程度にとどまるのが普通である。そこで、同様にした本アンケートでは、期間中に数回、学部担当者がメールや口頭による回答依頼を行った。この結果として、今年度の回答率が約 66%となり、全国平均より高い回答率であったことは誇らしいことである。この詳細については「6　卒業生満足度評価アンケート」で述べている。

さらに平成 30 年度においては、アンケートの回答状況をブラウザから閲覧するためのシステムを開発した。これは閲覧時点での回答者数だけでなく、回答者の学籍番号の一覧も確認することができるものである。これを利用すれば、各学科の担当教員が未回答者に対して回答を促すことができるようになり、回答者数が増えることが期待できる。実際、昨年度よりも増えたことが確認できた。

(4) 授業評価アンケートの見直しに向けて

ここ数年の部会において、本学で実施している授業評価アンケートに関して、「(1) 紙媒体のために事務的作業負担が大きい」「(2) 自由記述欄の記載内容を活用できていない」「(3) ここ数年において評価内容が高止まりの傾向を示しており、授業改善という当初の目的をほぼ達成したような状況にあるので、今後は質問項目を見直してより有意義なアンケートを実施すべきではないか」の３つが課題として挙げられていた。そこで平成 30 年度では、授業評価アンケートを全体的に見直し、いくつかの科目において試行することになった。新しいアンケートの具体的な質問項目についてはここで述べな

いが、新しい授業評価アンケートでは、学生に対して授業内容の振り返りを促し、アンケートの回答行為が当該科目の復習になるような方針で設計した。また、回答は学生が持っているパソコンやスマートフォンで回答できるようにし、これによる事務的作業負担を大幅に減らすことを目指している。

7-2　点検・評価

ICT を利用してＦＤ活動の一部を効率良く運用することを試みた。システム導入のための人的・経済的コストは低くはないが、一度導入すれば効率よくＦＤ活動を支援できることがわかった。ただし、すべての活動に ICT を導入するのが良いということでなく、大幅に作業手順が変わらないような定型処理への導入が有効である。全国的に大規模大学においてＩＲ（Institutional Research）の導入が盛んである。本学もＩＲ導入を見据えたＦＤ活動や教育活動における ICT 利用を今後もより推し進める必要があると考えている。

7-3　改善計画（改善点）

上記のような試みをより効果的なものにするには、本学教職員の ICT スキルの向上が不可欠である。そのため、新任・昇任教員研修の中での実習や、講習会、勉強会を次年度の活動に組み入れるよう計画を進めている。

８．おわりに

ＦＤ研究部会では、平成 19 年 12 月の発足より、学生のより深い学びを促進するため、様々な授業改善活動の取り組みを推進・支援してきた。

今年度は、田村禎通新学長のもと、本部会も新しい体制でのスタートとなった。とくに懸案事項であった「全学授業評価アンケート」の Web 化については、小林郁典副部会長の献身的なご努力もあって、次年度から実施することになっただけでなく、そもそも誰のための何の評価か、という検討が行われた結果、根本的な見直しが図られることになった。すなわち、アンケートを、第一義的に、学生による学生自身の学びの振り返りとして位置づけることによって、シラバス熟読による科目選択や受講の意味の確認に始まる、学びの過程を主体的に評価する目を養うことが期待できる。入学時から卒業時まで、学生一人一人の学修評価力の向上は、教員にとっても大きな刺激となり、本学の授業改善が着実に進むと考えられる。

本年度の活動に対する皆様のご尽力とご理解に感謝と敬意を申し上げるとともに、来年度もより幅広いＦＤ活動をＳＤと一体として進められるよう、教職員各位のより一層のご支援をお願いする次第である。

資 料 編 目 次

1　要綱・内規
1-1　徳島文理大学教育開発機構設置要綱　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
1-2　徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部　ＦＤ研究部会内規　・・・・　2

2　ＦＤ研究部会　部員名簿・会議一覧
2-1　平成30(2018)年度 ＦＤ研究部会部員名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
2-2　平成30(2018)年度 ＦＤ研究部会会議一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
2-3　平成30(2018)年度 ＦＤ研究部会議事録【別CD資料】

3　研修会
3-1　平成30(2018)年度 ＦＤ研修会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
3-2　平成30(2018)年度 新任・昇任教員研修会　・・・・・・・・・・・・・・・・　6
3-3　平成30(2018)年度 学外研修会等参加者一覧　・・・・・・・・・・・・・・　7
3-4　平成30(2018)年度 研修会プログラム及びアンケート【別CD資料】

4　全学授業評価アンケート
4-1　平成30(2018)年度 全学授業評価アンケート　・・・・・・・・・・・・・　10
4-2　平成30(2018)年度 前期・大学全体　集計結果　・・・・・・・・・・・・　11
4-3　平成30(2018)年度 前期・学部全体　集計結果　・・・・・・・・・・・・　12
4-4　平成30(2018)年度 前期・短期大学部全体　集計結果　・・・・・・・・　13
4-5　平成30(2018)年度 後期・大学全体　集計結果　・・・・・・・・・・・・　14
4-6　平成30(2018)年度 後期・学部全体　集計結果　・・・・・・・・・・・・　15
4-7　平成30(2018)年度 後期・短期大学部全体　集計結果　・・・・・・・・　16
4-8　「学生による授業評価アンケート」実施要領　・・・・・・・・・・・・・　17
4-9　授業評価アンケート結果のフィードバックについて（お願い）　・・・・　18
4-10 アクションプランシート様式　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19
4-11 平成30(2018)年度 アクションプランシートデータ【別CD資料】

5　研究授業
5-1　平成30(2018)年度 前期 研究授業一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・　20
5-2　平成30(2018)年度 後期 研究授業一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
5-3　研究授業(教員相互の授業参観)記録様式　・・・・・・・・・・・・・・・・　22
5-4　研究授業(目標設定型)記録様式　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23
5-5　平成30(2018)年度 研究授業の記録【別CD資料】

6　卒業生満足度評価アンケート
6-1　平成30(2018)年度 卒業生満足度評価アンケート　・・・・・・・・・・　24
6-2　平成30(2018)年度 大学全体　集計結果　・・・・・・・・・・・・・・・　25
6-3　平成30(2018)年度 大学院・専攻科・学部全体　集計結果　・・・・・　26
6-4　平成30(2018)年度 短期大学部全体　集計結果　・・・・・・・・・・・・　27
6-5　平成30年度卒業生満足度評価アンケート(Web)について　・・・・・・・・　28
6-6　平成30(2018)年度 学部別データ【別CD資料】

7　用語解説
7-1　用語解説　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29

1-1

徳島文理大学教育開発機構設置要綱

（設置・目的）

第１条　全学的な教育改革を実現するため、当面する教育上の諸課題又は学長からの諮問事項を研究協議し、徳島文理大学（以下「本学」という。）の一層の教育力の向上を図ることを目的として、本学に学長直属の教育開発機構（以下「機構」という。）を設置する。

（組織）

第２条　機構に、次に掲げる委員会及び部会を置く。

(1)　全学教務委員会

(2)　入試制度検討部会（入学前教育を含む。）

(3)　全学共通教育研究部会

(4)　ＦＤ研究部会

２ 機構の代表責任者は、副学長とする。

（委員会及び部会の構成）

第３条　委員会及び各部会は、それぞれ各学部及び関係する事務部門から推薦された委員又は部会員で構成する。ただし、学長が特に必要と認めた者を加えることができる。

（委員長及び部会長）

第４条　委員会及び各部会に、それぞれ委員長又は部会長を置く。

２　委員長及び部会長は、学長が任命する。

３　委員長及び部会長の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。

４　委員長又は部会長がやむを得ない事由により退任する場合は、学長に申し出て、その承認を受けなければならない。

（委員及び部会員）

第５条　委員及び部会員の任期は１年とする。ただし、再任を妨げない。

（委員会及び部会）

第６条　委員長及び部会長は、必要に応じ、それぞれ委員会又は部会を招集するものとする。

２　委員会又は各部会の議長は、委員長又は各部会長がこれに充たる。

３　委員長又は各部会長に事故あるとき、若しくは欠けた場合は、あらかじめ委員長又は各部会長が指名した者が議長となる。

４　委員及び部会員がやむを得ない事由により欠席する場合は、代理出席を認めるものとする。

（事務局）

第７条　機構の事務は、徳島キャンパス教務部が処理するものとする。

（補則）

第８条　この要綱に定めるもののほか、機構の運営に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

１　この要綱は、平成２９年４月１日から施行する。

２　「徳島文理大学教育開発機構設置要綱」（平成１９年１０月３０日施行）は、廃止する。

1-2

徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部　ＦＤ研究部会内規

（設　置）

第１条　徳島文理大学教育開発機構設置要綱に基づき、ＦＤ研究部会を設置する。

（目　的）

第２条　ＦＤとは「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」（大学設置基準第二十五条の三）を指すものであり、ＦＤ研究部会は、全学的なＦＤ活動を推進及び支援し、教育の質の向上を図ることを目的とする。

（調査研究事項）

第３条　ＦＤ研究部会は、次に掲げる事項を調査研究する。

１　ＦＤ活動に関する情報収集と提供

２　ＦＤ活動の企画・立案

３　ＦＤ活動実施計画の立案・実施

４　ＦＤ活動の評価

５　その他、ＦＤ研究部会が必要と認めた事項

（組　織）

第４条 ＦＤ研究部会は、次の委員をもって構成する。

１　部会長　１名

２　副部会長　２名　（徳島キャンパス１名、香川キャンパス１名）

３　部員　各学部より１名、教育研究支援課より若干名

第５条　部会長・副部会長及び部員の選任

１　部会長・副部会長は学長が任命する。

２　部員は各学部長及び教務部長が学長に推薦し、学長が任命する。

第６条　部会長及び部員の退任

１　部会長・副部会長は、諸事情により退任する場合は学長に申し出なければならない。

２　部員は、諸事情により退任する場合は各学部長あるいは教務部長に申し出なければならない。

（会　議）

第７条　部会の開催

１　部会長は、原則として毎月１回部会を開催し、これを主宰する。

２　部員は、部会長の招集に応じ部会に出席しなければならない。やむを得ない事情により欠席する場合は、代理の出席者を立てなければならない。

（任　期）

第８条　部会長、副部会長及び部員の任期は原則２か年とし、再任を妨げない。

（事務局）

第９条　ＦＤ研究部会の事務は、教育研究支援課が担当する。

附　則

１　本内規は、平成 19 年 12 月 13 日から施行する。

２　本内規は、平成 20 年 12 月 2 日から一部改正施行する。

３　本内規は、平成 26 年 4 月 1 日から一部改正施行する。

４　本内規は、平成 30 年 4 月 1 日から一部改正施行する。

2-1

平成 30(2018)年度　ＦＤ研究部会部員名簿

	氏　　名	所　　属
副 学 長	吉田　憲一	
部 会 長	青野　　透	総合政策学部
副部会長	宗野　真和	薬学部
〃	小林　郁典	理工学部
部　　員	橋本　誠志	総合政策学部
〃	山城　新吾	人間生活学部
〃	福島　道子	保健福祉学部(徳島キャンパス)
〃	千葉さやか	音楽学部
〃	川道　映里	短期大学部
〃	加藤　善久	香川薬学部
〃	上田　雅彦	保健福祉学部(香川キャンパス)
〃	中条　義輝	文学部
事 務 局	新見　延安	教育研究支援課(徳島キャンパス)
〃	藤本浩美(4/1～10/31) 橋本志保(11/1～3/31)	〃
〃	竹本　惠一	教育研究支援課(香川キャンパス)

2-2

平成 30(2018)年度　ＦＤ研究部会会議一覧

回　　数	日　　時	会　場
第 99 回 FD 研究部会	平成 30 年 4 月 16 日(月) 16：30～18：00	徳島キャンパス：２５号館４階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館３階ＡＶホール (テレビ会議)
第 100 回 FD 研究部会	平成 30 年 5 月 31 日(木) 16：30～18：00	徳島キャンパス：２５号館４階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館３階ＡＶホール (テレビ会議)
第 101 回 FD 研究部会	平成 30 年 7 月 5 日(木) 16：30～18：00	徳島キャンパス：２５号館４階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館３階ＡＶホール (テレビ会議)
第 102 回 FD 研究部会	平成 30 年 7 月 26 日(木) 16：30～18：30	徳島キャンパス：２５号館４階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館３階ＡＶホール (テレビ会議)
第 103 回 FD 研究部会	平成 30 年 9 月 27 日(木) 16：30～17：30	徳島キャンパス：２５号館４階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館３階ＡＶホール (テレビ会議)
第 104 回 FD 研究部会	平成 30 年 10 月 25 日(木) 16：30～17：30	徳島キャンパス：２５号館４階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館３階ＡＶホール (テレビ会議)
第 105 回 FD 研究部会	平成 30 年 11 月 22 日(木) 16：30～17：30	徳島キャンパス：２５号館４階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館３階ＡＶホール (テレビ会議)
第 106 回 FD 研究部会	平成 30 年 12 月 20 日(木) 16：30～17：30	徳島キャンパス：２５号館４階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館３階ＡＶホール (テレビ会議)
第 107 回 FD 研究部会	平成 31 年 1 月 24 日(木) 16：30～17：30	徳島キャンパス：２５号館４階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館３階ＡＶホール (テレビ会議)
第 108 回 FD 研究部会	平成 31 年 2 月 28 日(木) 16：30～17：30	徳島キャンパス：２５号館４階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館３階ＡＶホール (テレビ会議)

3-1

平成 30(2018)年度　ＦＤ研修会

①第１回ＦＤ研修会（第１回新任・昇任教員研修と同時開催）

・日　時：４月２１日（土）１０：００～１６：００
・演　題：「本学の学習支援システム LMS（G Suite for Education）の研修」
・講　師：理工学部准教授　小林　郁典、情報センター　松田　和也、松井　康
・会　場：徳島キャンパス　２５号館（メディアセンター）３階メディアラボ　１名
合計　１名参加

②第２回ＦＤ研修会（ＦＤ／ＳＤ対象）（ＳＰＯＤ遠隔配信）

・日　時：９月４日(火）１０：００～１２：００
・演　題：「３つのポリシーの開発と一貫性構築手法」
・講　師：小林　直人（愛媛大学学長特別補佐　教育企画室長）
・会　場：徳島キャンパス　２５号館４階　スタジオ型講義室（遠隔配信）
香川キャンパス　図書館　３階　ＡＶホール（遠隔配信）
※台風のため中止、徳島キャンパス　１０月２６日ＤＶＤによる研修会　３名
香川キャンパス　受講希望者にＤＶＤ回覧　５名
合計　８名参加

③第３回ＦＤ研修会（ＦＤ対象）（ＳＰＯＤ遠隔配信）

・日　時：９月４日(火）１３：００～１５：００
・演　題：「大人数講義法の基本」
・講　師：小林　直人（愛媛大学学長特別補佐　教育企画室長）
・会　場：徳島キャンパス　２５号館４階　スタジオ型講義室（遠隔配信）
香川キャンパス　図書館　３階　ＡＶホール（遠隔配信）
※台風のため中止、徳島キャンパス　１０月２６日ＤＶＤによる研修会　２名
香川キャンパス　受講希望者にＤＶＤ回覧　３名
合計　５名参加

④第４回ＦＤ研修会（全学ＦＤ研修会）

・日　時：９月１８日（火）合同教授会の終了後　１６：３０～１７：３０
・演　題：「防災・減災及び防災教育における大学の役割」
・講　師：栗田　充治　（亜細亜大学学長）
・会　場：主会場　徳島キャンパス　２号館　アカンサスホール　１７５名
副会場　図書館　３階　ＡＶホール（遠隔配信）　８１名
合計　２５６名参加
※当日欠席者には、後日Ｗｅｂにおける視聴研修を実施

3-2

平成30(2018)年度　新任・昇任教員研修会

①第１回新任・昇任教員研修会

・日　時：４月２１日（土）１０：００～１６：００
・会　場：徳島キャンパス　２５号館３階メディアラボ室
・参加数：３８名
・プログラム

10：00～10：10　田村　禎通　学長
「新任・昇任教員研修について」

10：10～12：00　小林　郁典（理工学部教員）
松田　和也・松井　　康（情報センター職員）
「本学に導入済みの学習支援システムLMSの紹介」
（G Suite for Educationの機能紹介）

12：00～13：00　「学長と新任・昇任教員との意見交換会」

13：00～14：30　小林　郁典（理工学部教員）
松田　和也・松井　　康（情報センター職員）
「学習支援システムを利用した授業体験（設定方法、利用方法）」

14：40～16：00　小林　郁典（理工学部教員）
松田　和也・松井　　康（情報センター職員）
「学習支援システムを利用した授業体験（担当授業でのLMSの利用検討）」

②第２回新任・昇任教員研修会

・日　時：５月１２日（土）１０：００～１６：００
・会　場：徳島キャンパス　２号館２階アカンサススタジオ南
・参加数：３１名
・プログラム

10：00～10：10　青野　　透　ＦＤ研究部会部会長
「本日の研修について」

10：10～10：40　古田　　昇（文学部教員）
「アクティブラーニングと学生の多様性
ー発達障害学生への配慮からー 」

10：40～11：00　岡部　千鶴（人間生活学部教員）
「小さな一歩から始めよう　FD活動への取り組み」

12：00～13：00　「参加者の意見交換会」

13：00～14：30　宮原　和沙（保健福祉学部教員）
「アクティブラーニング型講義を体験してみよう」

14：40～16：00　青野　　透（総合政策学部教員）
「誰のため、何のためのアクティブラーニングか」

3-3

平成 30(2018)年度　学外研修会等参加者一覧

①ＳＰＯＤ研修会・フォーラム等参加

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成30年 4月19日(木)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)	SPOD	徳島大学	(講師として) (香川キャンパス) 入試広報部 板東　博士
平成30年 5月30日(水)～ 6月1日(金)	平成30年度 次世代リーダー養成ゼミナールSD (第1回)	SPOD	愛媛大学	(徳島キャンパス) 教務部 藤本　正己
平成30年 5月25日(金)	大学FD・SD学習会2018	株式会社 教育ソフトウェア	赤坂山王 健保会館	(徳島キャンパス) 保健福祉学部 宮原　和沙 (香川キャンパス) 理工学部 小林　郁典 教務部 竹本　恵一
平成30年 6月16日(土)～ 6月17日(日)	平成30年度 徳島大学全学ＦＤプログラム 授業設計ワークショップ	SPOD 徳島大学	徳島大学	(徳島キャンパ)ス 地域連携センター 滝川　稲子 (香川キャンパス) 香川薬学部 中妻　彩
平成30年 6月28日(木)～ 6月29日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ)	SPOD	愛媛大学	(香川キャンパス) 入試広報部 安藝　誠二
平成30年 6月30日(土)～ 7月1日(火)	第30回愛媛大学授業デザインワークショップ	SPOD 愛媛大学	愛媛大学	(香川キャンパス) 香川薬学部 久保山和哉
平成30年 7月19日(木)～ 7月20日(金)	平成30年度 次世代リーダー養成ゼミナールSD (第2回)	SPOD	高知大学	(徳島キャンパス) 総務部 田村友莉香 教務部 藤本　正己
平成30年 8月29日(水)～ 8月31日(金)	SPODフォーラム2018	SPOD 香川大学	香川大学	(徳島キャンパス) 人間生活学部 中川　利津代 薬学部 宗野　真和 総合政策学部 青野　透 松村　豊大

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成30年 8月29日（水）～ 8月31日（金）	SPODフォーラム2018	SPOD 香川大学	香川大学	（徳島キャンパス） 総合政策学部 橋本 誠志 吉川 友規 保健福祉学部 宮原 和沙 地域連携センター 藤巻 晃 総務部 井上 薫 東條 幸枝 教務部 藤本 正己 増本 佐優美 橋本 実佳 高橋 さゆり 中山 多佳子 猪子 郁代 （香川キャンパス） 理工学部 小林 郁典 総務部 近藤 陽子 教務部 竹本 惠一 梶尾 桂子 樫野 仁美 就職支援部 藤本 典子 入試広報部 板東 博士 情報センター 松下 宗孝 附属図書館 和田 裕子
平成30年 9月4日（火）	SPODプログラム【遠隔配信】 3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の開発と一貫性構築 ※台風の為遠隔配信中止。 後日DVDによる受講で実施	SPOD 愛媛大学	徳島文理大学 徳島・香川 両キャンパス	（徳島キャンパス） 教職員3名 （香川キャンパス） 教職員5名
平成30年 9月4日（火）	SPODプログラム【遠隔配信】 大人数講義法の基本 ※台風の為遠隔配信中止。 後日DVDによる受講で実施	SPOD 愛媛大学	徳島文理大学 徳島・香川 両キャンパス	（徳島キャンパス） 教職員2名 （香川キャンパス） 教職員3名
平成30年 9月4日（火）～ 9月5日（水）	平成30年度 学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	SPOD 高知大学	高知大学	（徳島キャンパス） 総合政策学部 吉川 友規 （香川キャンパス） 香川薬学部 桐山 賀充

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成30年 9月5日（水）～ 9月7日（金）	第31回愛媛大学 授業デザインワークショップ	SPOD 愛媛大学	愛媛大学	（香川キャンパス） 香川薬学部 久保山和哉
平成30年 9月13日（木）～ 9月14日（金）	よりよい授業のためのFDワークショップ	SPOD 香川大学	休暇村 讃岐五色台 （坂出市）	（香川キャンパス） 香川薬学部 小林 隆信
平成30年 11月1日(木)～ 11月2日(金)	平成30年度 次世代リーダー養成ゼミナールSD （第3回）	SPOD	愛媛大学	（徳島キャンパス） 教務部 藤本 正己 増本佐優美
平成30年 12月13日(木)	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	SPOD 愛媛大学	愛媛大学	（香川キャンパス） 香川薬学部 安元加奈未 教務部 安藝 和加
平成31年 3月3日(日)	2018年度 第24回FDフォーラム	公益財団法人 大学コンソーシアム京都	立命館大学	（香川キャンパス） 理工学部 竹本 惠一

②SPOD会議参加一覧表

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成30年 10月29日(月)	第1回T-SPOD会議	SPOD 徳島大学	徳島大学	（徳島キャンパス） 地域連携センター 藤巻 晃 教務部 新見 延安
平成31年 3月28日(木)	平成30年度 「四国地区大学教育能力開発ネットワーク」 総会及びFD/SD分科会	SPOD	愛媛大学	学長 田村 禎通 （徳島キャンパス） 総合政策学部 青野 透 総務部 井上 薫

4-1

平成 30(2018)年度　全学授業評価アンケート

アンケート 実 施 期 間	(第１クォーター) 平成30年 5月22日(火) ～ 6月 5日(火) (前期・第２クォーター) 平成30年 7月10日(火) ～ 7月31日(火) (第３クォーター) 平成30年11月 7日(水) ～ 11月21日(水) (後期・第４クォーター) 平成31年 1月 7日(月) ～ 2月 6日(水)
アンケート 実　施　率	(前期) 実施率　92.8% 総科目数　1057　実施科目数　981 (後期) 実施率　98.3% 総科目数　1164　実施科目数 1144
アクションプランシート 記 入 期 間	(前期) 平成30年 9月10日(月) ～ 9月27日(木) (後期) 平成31年 3月 6日(水) ～ 3月19日(火)
アクションプランシート 記　入　率	(前期) 記入率　92.2% (後期) 記入率　98.9%
アンケート結果 アクションプランシート 公 開 期 間	(前期) 平成 30 年 10 月 17 日(水) ～ 令和元年 9 月 27 日(金) (後期) 平成 31 年 4 月 5 日(金) ～ 令和 2 年 4 月 17 日(金)

4-2（前期・大学全体）

2018年度前期　　授業に対する学生の評価アンケート集計結果（全体）　　徳島文理大学

受講者数	37,512
回答者数	31,500

Ⅰ．あなたの授業の取り組みについて

No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.62	22,065	7,197	1,692	351	114	31,419	81
			70.2%	22.9%	5.4%	1.1%	0.4%		
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.51	18,902	10,093	2,042	258	109	31,404	96
			60.2%	32.1%	6.5%	0.8%	0.3%		
3	あなたはこの授業に関して、時間外学習を行いましたか	3.96	12,804	9,544	5,580	1,759	1,689	31,376	124
			40.8%	30.4%	17.8%	5.6%	5.4%		

Ⅱ．授業内容及び方法について

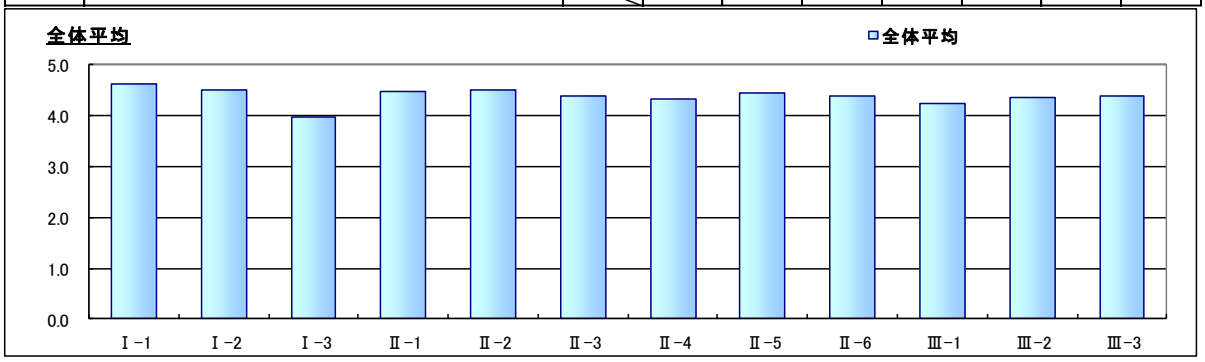
No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.46	18,622	9,265	3,033	257	173	31,350	150
			59.4%	29.6%	9.7%	0.8%	0.6%		
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.51	19,726	8,735	2,317	365	251	31,394	106
			62.8%	27.8%	7.4%	1.2%	0.8%		
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.37	17,850	9,119	3,043	908	480	31,400	100
			56.8%	29.0%	9.7%	2.9%	1.5%		
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.32	16,965	9,461	3,476	937	526	31,365	135
			54.1%	30.2%	11.1%	3.0%	1.7%		
5	教科書や教材（プリントなど）は適切でしたか	4.43	18,349	9,165	2,835	483	345	31,177	323
			58.9%	29.4%	9.1%	1.5%	1.1%		
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.38	17,676	9,078	3,325	643	420	31,142	358
			56.8%	29.2%	10.7%	2.1%	1.3%		

Ⅲ．授業全体について

No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	この授業の内容は理解できましたか	4.24	14,288	11,838	3,877	880	416	31,299	201
			45.7%	37.8%	12.4%	2.8%	1.3%		
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.35	16,588	10,454	3,286	621	351	31,300	200
			53.0%	33.4%	10.5%	2.0%	1.1%		
3	総合的に見て、この授業はよかったと思いますか	4.39	17,661	9,567	3,050	555	410	31,243	257
			56.5%	30.6%	9.8%	1.8%	1.3%		

Ⅳ．各学部用

No.	設問文	当集計平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1			44.1%	31.8%	20.9%	0.7%	2.5%	440	31,060
2			41.1%	33.5%	22.6%	0.8%	2.0%	394	31,106
3			40.9%	34.1%	22.9%	0.0%	2.1%	384	31,116



4-3（前期・学部全体）

2018年度前期　　授業に対する学生の評価アンケート集計結果（全体）　　徳島文理大学

集計単位	学部全体

受講者数	34,039
回答者数	28,523

Ⅰ．あなたの授業の取り組みについて

No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.62	20,087	6,436	1,510	313	102	28,448	75
			70.6%	22.6%	5.3%	1.1%	0.4%		
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.51	17,116	9,121	1,852	239	104	28,432	91
			60.2%	32.1%	6.5%	0.8%	0.4%		
3	あなたはこの授業に関して、時間外学習を行いましたか	3.96	11,594	8,736	5,007	1,599	1,471	28,407	116
			40.8%	30.8%	17.6%	5.6%	5.2%		

Ⅱ．授業内容及び方法について

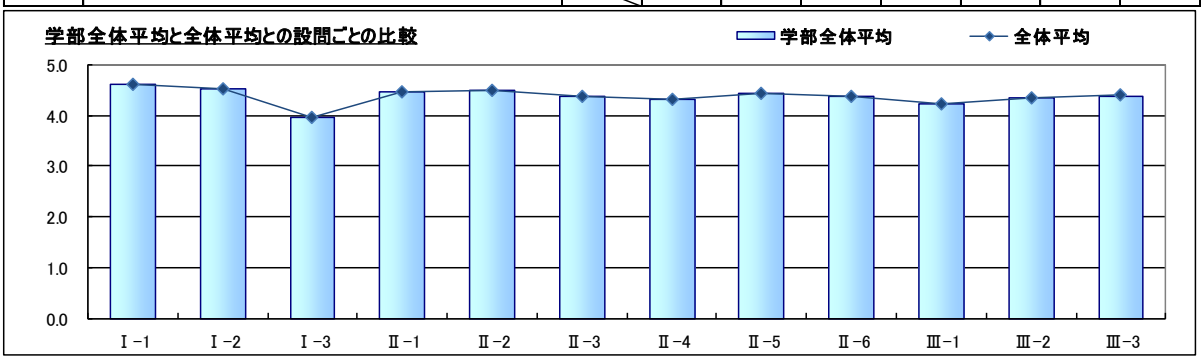
No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.46	16,815	8,426	2,756	237	154	28,388	135
			59.2%	29.7%	9.7%	0.8%	0.5%		
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.50	17,766	7,958	2,126	341	232	28,423	100
			62.5%	28.0%	7.5%	1.2%	0.8%		
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.36	16,101	8,269	2,791	826	445	28,432	91
			56.6%	29.1%	9.8%	2.9%	1.6%		
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.31	15,277	8,609	3,151	868	494	28,399	124
			53.8%	30.3%	11.1%	3.1%	1.7%		
5	教科書や教材（プリントなど）は適切でしたか	4.43	16,661	8,343	2,586	454	323	28,367	156
			58.7%	29.4%	9.1%	1.6%	1.1%		
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.38	16,077	8,253	3,019	599	394	28,342	181
			56.7%	29.1%	10.7%	2.1%	1.4%		

Ⅲ．授業全体について

No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	この授業の内容は理解できましたか	4.23	12,792	10,796	3,538	822	388	28,336	187
			45.1%	38.1%	12.5%	2.9%	1.4%		
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.35	14,967	9,478	2,991	575	326	28,337	186
			52.8%	33.4%	10.6%	2.0%	1.2%		
3	総合的に見て、この授業はよかったと思いますか	4.39	15,946	8,664	2,775	513	382	28,280	243
			56.4%	30.6%	9.8%	1.8%	1.4%		

Ⅳ．各学部用

No.	設問文	当集計平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1			43.3%	32.6%	20.9%	0.5%	2.6%	383	28,140
2			41.0%	33.6%	22.4%	0.9%	2.1%	339	28,184
3			40.4%	35.2%	22.3%	0.0%	2.1%	332	28,191



4-4（前期・短期大学部全体）

2018年度前期　　授業に対する学生の評価アンケート集計結果（全体）　　徳島文理大学

集計単位	短期大学部全体

受講者数	3,473
回答者数	2,977

Ⅰ．あなたの授業の取り組みについて

No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.57	1,978	761	182	38	12	2,971	6
			66.6%	25.6%	6.1%	1.3%	0.4%		
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.52	1,786	972	190	19	5	2,972	5
			60.1%	32.7%	6.4%	0.6%	0.2%		
3	あなたはこの授業に関して、時間外学習を行いましたか	3.89	1,210	808	573	160	218	2,969	8
			40.8%	27.2%	19.3%	5.4%	7.3%		

Ⅱ．授業内容及び方法について

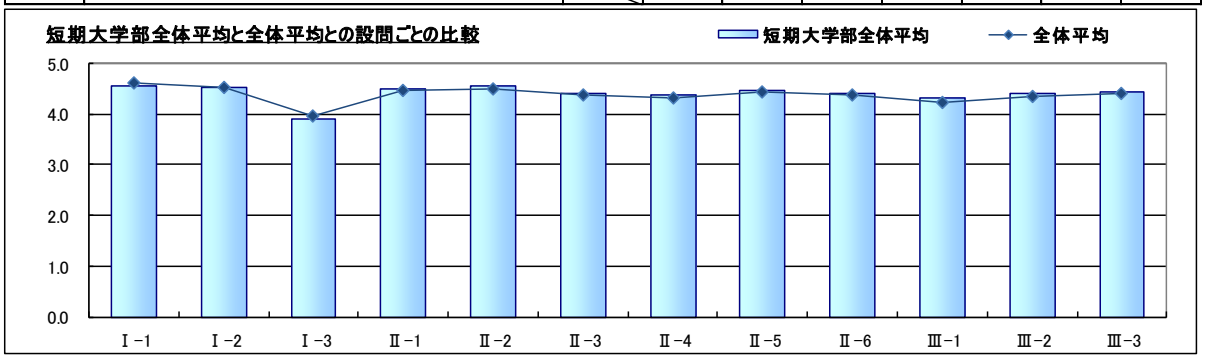
No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.48	1,807	839	277	20	19	2,962	15
			61.0%	28.3%	9.4%	0.7%	0.6%		
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.56	1,960	777	191	24	19	2,971	6
			66.0%	26.2%	6.4%	0.8%	0.6%		
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.41	1,749	850	252	82	35	2,968	9
			58.9%	28.6%	8.5%	2.8%	1.2%		
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.38	1,688	852	325	69	32	2,966	11
			56.9%	28.7%	11.0%	2.3%	1.1%		
5	教科書や教材（プリントなど）は適切でしたか	4.47	1,688	822	249	29	22	2,810	167
			60.1%	29.3%	8.9%	1.0%	0.8%		
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.40	1,599	825	306	44	26	2,800	177
			57.1%	29.5%	10.9%	1.6%	0.9%		

Ⅲ．授業全体について

No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	この授業の内容は理解できましたか	4.32	1,496	1,042	339	58	28	2,963	14
			50.5%	35.2%	11.4%	2.0%	0.9%		
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.39	1,621	976	295	46	25	2,963	14
			54.7%	32.9%	10.0%	1.6%	0.8%		
3	総合的に見て、この授業はよかったと思いますか	4.43	1,715	903	275	42	28	2,963	14
			57.9%	30.5%	9.3%	1.4%	0.9%		

Ⅳ．各学部用

No.	設問文	当集計平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1			49.1%	26.3%	21.1%	1.8%	1.8%	57	2,920
2			41.8%	32.7%	23.6%	0.0%	1.8%	55	2,922
3			44.2%	26.9%	26.9%	0.0%	1.9%	52	2,925



4-5（後期・大学全体）

2018年度後期　　授業に対する学生の評価アンケート集計結果（全体）　　徳島文理大学

受講者数	36,096
回答者数	30,536

Ⅰ．あなたの授業の取り組みについて

No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.62	21,364	7,052	1,628	310	118	30,472	64
			70.1%	23.1%	5.3%	1.0%	0.4%		
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.54	18,944	9,397	1,843	192	93	30,469	67
			62.2%	30.8%	6.0%	0.6%	0.3%		
3	あなたはこの授業に関して、時間外学習を行いましたか	4.07	13,752	9,018	5,027	1,426	1,209	30,432	104
			45.2%	29.6%	16.5%	4.7%	4.0%		

Ⅱ．授業内容及び方法について

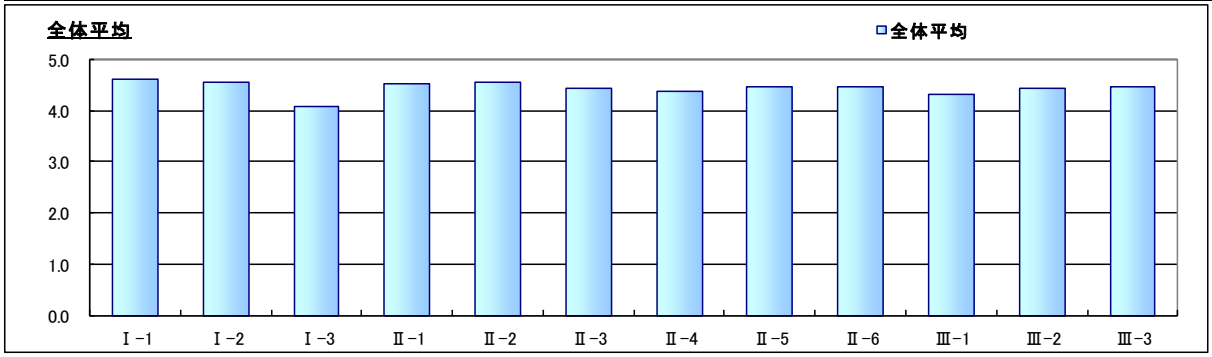
No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.52	19,201	8,342	2,507	204	168	30,422	114
			63.1%	27.4%	8.2%	0.7%	0.6%		
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.54	19,838	8,130	1,966	293	235	30,462	74
			65.1%	26.7%	6.5%	1.0%	0.8%		
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.44	18,366	8,463	2,582	645	400	30,456	80
			60.3%	27.8%	8.5%	2.1%	1.3%		
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.39	17,566	8,755	2,921	736	461	30,439	97
			57.7%	28.8%	9.6%	2.4%	1.5%		
5	教科書や教材（プリントなど）は適切でしたか	4.47	18,567	8,371	2,491	397	322	30,148	388
			61.6%	27.8%	8.3%	1.3%	1.1%		
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.45	18,345	8,233	2,715	466	366	30,125	411
			60.9%	27.3%	9.0%	1.5%	1.2%		

Ⅲ．授業全体について

No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	この授業の内容は理解できましたか	4.33	15,403	10,863	3,116	648	360	30,390	146
			50.7%	35.7%	10.3%	2.1%	1.2%		
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.43	17,450	9,481	2,687	459	310	30,387	149
			57.4%	31.2%	8.8%	1.5%	1.0%		
3	総合的に見て、この授業はよかったと思いますか	4.46	18,291	8,731	2,574	408	357	30,361	175
			60.2%	28.8%	8.5%	1.3%	1.2%		

Ⅳ．各学部用

No.	設問文	当集計平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1			46.3%	33.7%	17.3%	0.4%	2.4%	255	30,281
2			42.4%	36.0%	19.7%	0.0%	2.0%	203	30,333
3			42.3%	36.1%	19.6%	0.0%	2.1%	194	30,342



4-6（後期・学部全体）

2018年度後期　　授業に対する学生の評価アンケート集計結果（全体）　　徳島文理大学

集計単位	学部全体

受講者数	33,244
回答者数	28,155

Ⅰ．あなたの授業の取り組みについて

No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.63	19,878	6,402	1,438	269	107	28,094	61
			70.8%	22.8%	5.1%	1.0%	0.4%		
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.54	17,553	8,613	1,660	175	89	28,090	65
			62.5%	30.7%	5.9%	0.6%	0.3%		
3	あなたはこの授業に関して、時間外学習を行いましたか	4.09	12,799	8,313	4,565	1,285	1,093	28,055	100
			45.6%	29.6%	16.3%	4.6%	3.9%		

Ⅱ．授業内容及び方法について

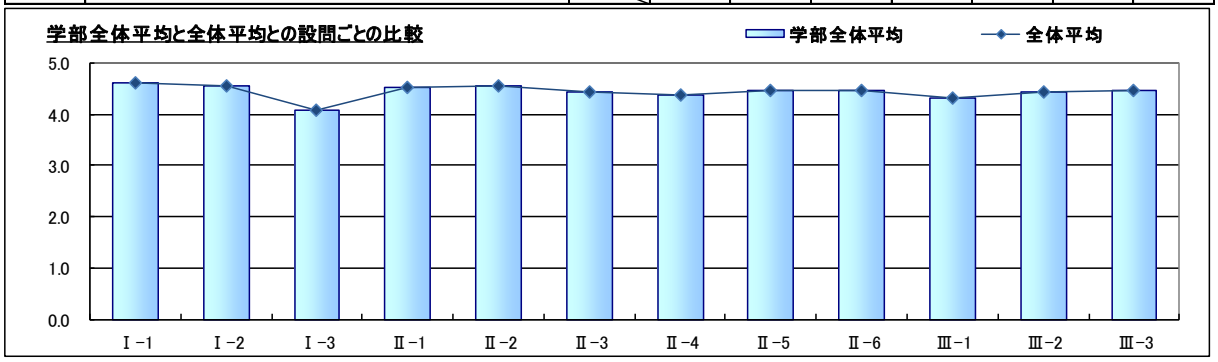
No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.52	17,766	7,661	2,262	198	163	28,050	105
			63.3%	27.3%	8.1%	0.7%	0.6%		
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.54	18,315	7,478	1,790	277	225	28,085	70
			65.2%	26.6%	6.4%	1.0%	0.8%		
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.43	16,929	7,787	2,371	605	385	28,077	78
			60.3%	27.7%	8.4%	2.2%	1.4%		
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.38	16,197	8,034	2,692	694	445	28,062	93
			57.7%	28.6%	9.6%	2.5%	1.6%		
5	教科書や教材（プリントなど）は適切でしたか	4.48	17,215	7,702	2,283	370	308	27,878	277
			61.8%	27.6%	8.2%	1.3%	1.1%		
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.45	17,016	7,576	2,480	437	344	27,853	302
			61.1%	27.2%	8.9%	1.6%	1.2%		

Ⅲ．授業全体について

No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	この授業の内容は理解できましたか	4.32	14,150	10,060	2,852	611	349	28,022	133
			50.5%	35.9%	10.2%	2.2%	1.2%		
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.42	16,109	8,729	2,457	427	297	28,019	136
			57.5%	31.2%	8.8%	1.5%	1.1%		
3	総合的に見て、この授業はよかったと思いますか	4.45	16,866	8,050	2,354	385	341	27,996	159
			60.2%	28.8%	8.4%	1.4%	1.2%		

Ⅳ．各学部用

No.	設問文	当集計平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1			46.6%	34.8%	15.4%	0.5%	2.7%	221	27,934
2			44.1%	36.3%	17.3%	0.0%	2.2%	179	27,976
3			44.4%	36.3%	17.0%	0.0%	2.3%	171	27,984



4-7（後期・短期大学部全体）

2018年度後期　　授業に対する学生の評価アンケート集計結果（全体）　　徳島文理大学

集計単位	短期大学部全体

受講者数	2,852
回答者数	2,381

Ⅰ．あなたの授業の取り組みについて

No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.50	1,486	650	190	41	11	2,378	3
			62.5%	27.3%	8.0%	1.7%	0.5%		
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.49	1,391	784	183	17	4	2,379	2
			58.5%	33.0%	7.7%	0.7%	0.2%		
3	あなたはこの授業に関して、時間外学習を行いましたか	3.94	953	705	462	141	116	2,377	4
			40.1%	29.7%	19.4%	5.9%	4.9%		

Ⅱ．授業内容及び方法について

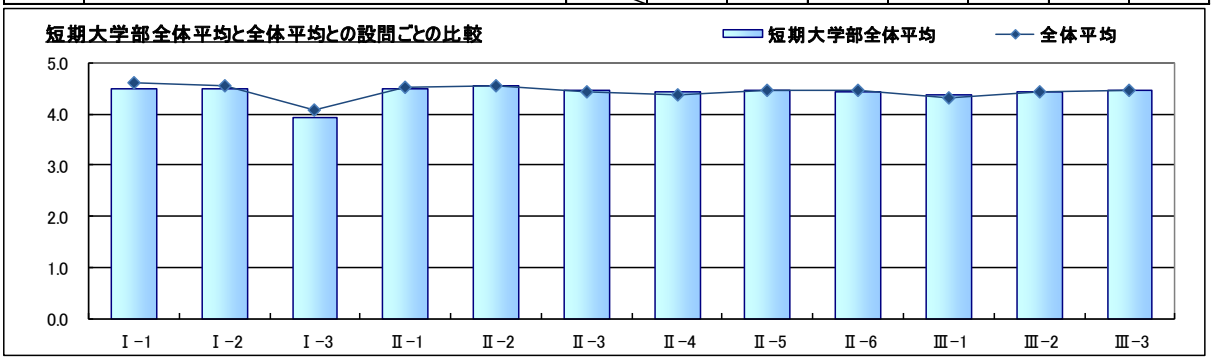
No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.49	1,435	681	245	6	5	2,372	9
			60.5%	28.7%	10.3%	0.3%	0.2%		
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.54	1,523	652	176	16	10	2,377	4
			64.1%	27.4%	7.4%	0.7%	0.4%		
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.46	1,437	676	211	40	15	2,379	2
			60.4%	28.4%	8.9%	1.7%	0.6%		
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.42	1,369	721	229	42	16	2,377	4
			57.6%	30.3%	9.6%	1.8%	0.7%		
5	教科書や教材（プリントなど）は適切でしたか	4.46	1,352	669	208	27	14	2,270	111
			59.6%	29.5%	9.2%	1.2%	0.6%		
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.43	1,329	657	235	29	22	2,272	109
			58.5%	28.9%	10.3%	1.3%	1.0%		

Ⅲ．授業全体について

No.	設問文	当集計平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	有効回答	無効回答
1	この授業の内容は理解できましたか	4.37	1,253	803	264	37	11	2,368	13
			52.9%	33.9%	11.1%	1.6%	0.5%		
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.43	1,341	752	230	32	13	2,368	13
			56.6%	31.8%	9.7%	1.4%	0.5%		
3	総合的に見て、この授業はよかったと思いますか	4.47	1,425	681	220	23	16	2,365	16
			60.3%	28.8%	9.3%	1.0%	0.7%		

Ⅳ．各学部用

No.	設問文	当集計平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1			44.1%	26.5%	29.4%	0.0%	0.0%	34	2,347
2			29.2%	33.3%	37.5%	0.0%	0.0%	24	2,357
3			26.1%	34.8%	39.1%	0.0%	0.0%	23	2,358



「学生による授業評価アンケート」後期・第３・第４クォーター実施要領

平成３０年１１月
徳島文理大学・短期大学部ＦＤ研究部会

今年度、後期・第３・第４クォーターにおける標題のアンケート実施について、下記の要領でご協力くださるようお願いいたします。

記

１．アンケートは**授業担当者が配布し、趣旨・記入方法等を説明**してください。
２．**回収と提出は、原則として授業担当者以外（例：各クラス委員、受講代表者など）**が行ってください。なお、**回収後は直ちに提出するよう指示**ください。
３．アンケート実施期間
　第３クォーター　　：**平成３０年１１月　７日(水)～１１月２１日(水)**
　後期・第４クォーター：**平成３１年　１月　７日(月)～　２月　６日(水)**
４．提出期限：各アンケート実施当日
５．提出場所：徳島キャンパス　　１号館１階　教務課カウンターまたは
　　２５号館６階　教育研究支援課
　　香川キャンパス　各学部事務室

【記入方法及び注意事項】
１．他学部の学生が履修している科目がありますが、区別せずに実施してください。
２．アンケート実施の趣旨及び記入に際しての注意を、以下のようにご説明ください。
「授業アンケートは、授業の改善に役立てるために行います。そのため、一人ひとりの学生には、誠意をもってきちんと回答することが期待されています。また、自由記述欄には、授業の方法について、授業を良くするための意見を書いてください。」
３．マークシートを学生１名につき１枚配布してください。
４．マークシートを汚したり、折り曲げたりしないように注意してください。
５．記入には**ＨＢの鉛筆**または**シャープペンシル**を使用するように指示してください。
６．マークシートの**「年度」「所属学部」「学年」「科目コード」等**を記入し、それぞれ該当する数字をマークするよう指示してください。
　「年度」　　・・・１８
　「所属学部」　・・・学生の所属学部。裏面「学部コード一覧表」参照
　「科目コード」・・・封筒ラベル参照
黒板に書くなどして、正確なコードを学生に知らせてください。
７．回答には**約１５分間**かけてください。
８．回収後は速やかにマークシートを残部も含めすべて封筒に入れてください。
９．その他　何かご不明な点がありましたら下記までご連絡ください。
　　徳島キャンパス　藤本（内線：８６６４）
　　香川キャンパス　鞍田（内線：７５５２）

4-9

平成３１年３月

教員各位

ＦＤ研究部会

授業評価アンケート結果のフィードバックについて（お願い）

日頃より、本学のＦＤ活動にご理解ご支援いただき、心より感謝申し上げます。また、学生による授業評価アンケートへのご協力、重ねてお礼申し上げます。

さて、今年度後期及び第３クォーター・第４クォーターのアンケート結果がまとまりましたのでご覧頂き、それをもとに以下の要領で「アクションプランシート」の作成をお願いいたします。

「アクションプランシート」は、回答してもらったアンケートに対する、学生への大切なフィードバックですので、ご協力をよろしくお願いいたします。

(1) 封筒の中に、アンケート用紙と集計結果表が入っています。

①自由記述欄は集計表に記載されていませんので、アクションプランシート記入の際に、ご活用ください。

②アンケート用紙は、担当の先生方で２０２０年３月末まで保管していただき、それ以降は各自で処分してください。

(2) アクションプランシートの作成は、次の要領で、Ｗｅｂ上で行います。

①３月６日(水)に、各先生方のメールアドレスへ以下の２通のメールが届きます。

（１通目）
件　　名：
《徳島文理大学授業評価アンケートＷＥＢサイト【ハイブリッド授業評価】システムのご案内(1/2通目)》

内　　容：アクションプランシート作成依頼
「ＵＲＬ」、「ログインＩＤ」の案内

（２通目）
件　　名：
《徳島文理大学授業評価アンケートＷＥＢサイト【ハイブリッド授業評価】システムのご案内(2/2通目)》

内　　容：「パスワード」の案内

※３月７日になってもメールが届かないときは、以下の担当者までご連絡下さい。
※ログインすることで、アンケート集計結果（過去のアンケート結果を含む）をＷｅｂ上で閲覧でき、経年比較による分析ができます。

②アンケート集計結果と自由記述欄を参考に、アクションプランシートを記入します。

記入項目：「アンケート結果に対するコメント」と「今後の授業に向けて」

入力期間：３月６日(水)～３月１９日(火)

※入力期間の日付を過ぎると入力ができなくなりますので、ご注意ください。
※入力方法の詳細は、操作マニュアル（ログイン画面右上「ヘルプ」で表示）を参照してください。

(3) アクションプランシートの公開は、次のようになっています。

公開期間：平成３１年４月５日(金)～２０２０年４月１７日(金)予定

※教員及び学生は、両キャンパスの全ての科目を閲覧できます。

○不明な点がございましたら、以下の担当者へお尋ねください。

徳島ｷｬﾝﾊﾟｽ：橋本志保（E-mail: s-hashimoto@tks.bunri-u.ac.jpTEL.088-602-8664）
香川ｷｬﾝﾊﾟｽ：鞍田典昭（E-mail: n-kurata@kgw.bunri-u.ac.jp　TEL.087-899-7552）

4-10

アクションプランシート

2018 年度後期　曜日（　　）
科目名：（　　）
教員名：（　　）

項目見出し	コメント
アンケート結果に対するコメント	
今後の授業に向けて	

5-1

平成 30(2018)年度　前期　研究授業一覧

徳島キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科	科目	受講学生数	教授法	シラバス科目番号	授業者	教室	参観教員数	授業者	協力者
4月19日	木	5	徳島キャンパス全学部	全学科1年	第3回文理学		アクティブラーニング		青野　透	むらさきホール			
5月28日	月	3	保健福祉	人間福祉	人間生活学部児童学科数学A（行列式の性質）	14	講義	12934	峯崎　征隆	9601	3	1	1
5月29日	火	2	保健福祉	口腔保健	医療倫理学	25	アクティブラーニング（TBL授業）	10124	森田　敏子	2509②	9	1	0
6月7日	木	2	薬学	薬学	物理化学1	72	講義	14058	張　功幸	24201	8	1	0
6月18日	月	3	音楽	音楽	音楽通論	16	講義（実践演習および発表を含む）	14559	松岡　貴史	5804	2	1	1
7月3日	火	2	保健福祉	看護	慢性期看護援助論	105	講義	12053	上田伊佐子	3807	5	1	0
7月12日	木	2	人間生活	心理2年	青年心理学 -私にとっての被服とは-	60	アクティブラーニング	85075	小畑　千晴	9703	1	1	0

香川キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科	科目	受講学生数	教授法	シラバス科目番号	授業者	教室	参観教員数	授業者	協力者
4月6日	金	18:30 20:00	文	3学科1年	文学部研修1	72	アクティブラーニング		文学部教員	屋島少年自然の家	5	3	5
4月26日	木	5	香川キャンパス全学部	全学科1年	第4回文理学	280	講義とアクティブラーニング		青野　透	村崎サイメモリアルホール			
5月21日	月	1	香川薬学	薬学科2年	生薬学	56	講義（スライドと補助資料）	1019	代田　修	203	17	1	0
6月11日	月	2	文	文化財	考古学概論	27	講義	10534	大久保徹也	201	1	1	0
6月11日	月	2	文	文化財	建築遺産論	7	講義	11552	清水　真一	文305	1	1	0
6月11日	月	4	文	文化財	日本文化史	29	講義	11418	橋詰　茂	102	1	1	0
6月12日	火	1	文	文化財	日本史概論	28	講義	11396	橋詰　茂	301	1	1	0
6月12日	火	1	文	文化財	考古資料の分析B	6	演習	11618	大久保徹也	文304			
6月12日	火	1	文	文化財	地域環境学	33	講義	11613	古田　昇	視聴覚	1	1	0
6月12日	火	2	文	文化財	日本建築史Ⅱ	21	講義	11612	清水　真一	303			
6月13日	水	1	文	文化財	文化財学概論A	11	講義	10713	清水　真一	文305			
6月13日	水	2	文	文化財	古文献研究	10	演習	11401	橋詰　茂	文303			
6月13日	水	2	文	文化財	文化財学概論B	17	講義	10554	大久保徹也	文306			
6月13日	水	4	文	文化財	現代社会の理解A	61	講義	11615	橋詰　茂	203			
6月14日	木	4	文	文化財	地理学A	28	講義	11237	古田　昇	視聴覚			
6月15日	金	2	文	文化財	文化財情報A	23	演習	11609	中条　義輝	412			
6月15日	金	3	文	文化財	文化財情報B	15	演習	11565	中条　義輝	412			
6月22日	金	2	文	文化財	自然地理学	10	講義	11191	古田　昇	視聴覚	1	1	0

5-2

平成 30(2018)年度　後期　研究授業一覧

徳島キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科	科目	受講学生数	教授法	シラバス科目番号	授業者	教室	参観教員数	授業者	協力者
10月18日	木	1	人間生活	人間生活	食品学実験	21	実験	13653	藤田　義彦	1501	2	1	1
10月24日	水	1	人間生活	心理	心理療法演習Ⅰ	33	演習	13590	藤崎ちえ子	実験室2（9F）	3	1	1
10月24日	水	2	人間生活	児童	生活	31	講義・演習・AL	14282	西原　正純	9701	3	1	0
10月29日	月	4	保健福祉	人間福祉	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	15	講義	11917	岩城　由幸	25号館10階④	2	1	1
10月29日	月	5	薬学部	薬学科	薬学演習2（有機化学系）	94	TBL演習（チーム基盤型学習）	14043	今川　洋	24202	7	1	1
11月15日	木	1	保健福祉	看護	在宅看護援助論	91	演習	12101	森　知子	3号館1階3103	目標設定型	1	0
12月19日	水	2	総合政策	総合政策	法学概論	111	講義	15760	青野　透	23304	3	1	0
12月19日	水	2	人間生活	メディアデザイン	社会調査研究Ⅰ	13	講義・演習	12712	古本奈奈代	25号館マルチメディア室	2	1	0
1月11日	金	2	人間生活学部	食物栄養学科	公衆栄養学Ⅱ	53	講義	14133	中川利津代	9303	7	1	1
1月11日	金	3	人間生活学部	食物栄養学科	臨床栄養管理論	54	講義	14172	森川　咲子	9303	8	1	0

香川キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科	科目	受講学生数	教授法	シラバス科目番号	授業者	教室	参観教員数	授業者	協力者
10月2日	火	2	文	日本文	日本語史	17	講義と課題プリント	10354	青木　毅	302	8	1	1
10月19日	金	3	理工	電子情報工 機械創造工	機械創造工 機械力学1	24	講義と演習	11336	電子情報工 藤澤正一郎	10号棟3608	2	1	0
11月16日	金	2	香川薬	薬	治療薬学2	48	講義（スライドと補助資料）	11327	山田　麻紀	312	22	1	0
1月11日	金	3	保健福祉	診療放射線	医用画像工学演習	39	講義	10700	松崎　健司	画像情報学実習室	0	1	0
1月23日	水	3・4	理工	ナノ物質工	プロジェクトラボB	21	調査・議論発表	11281	水野　貴之	ナノテク実験室	目標設定型	1	9

5-3

（様式）

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学　　部		学　　科	
授　業　者		科　目　名 （シラバス番号）	（　　）
授業協力者		実 施 教 室	
実 施 日 時	平成　　年　　月　　日　　曜日　　講時		
対 象 学 生		受講学生数：　　名	
教　授　法			
授業テーマ			
研究授業内容自己評価			
研究授業参観者の意見・感想			
授業参観教員数	名		

5-4

（様式）

研究授業（目標設定型）記録			
学　　部		学　　科	
実施代表者			
実 施 期 間	平成　　年　　月　　日　～　平成　　年　　月　　日		
目標の説明			
対 象 学 年 または科目	受講学生数：　　名		
具体的な取組み方法			
結果			
協力教員数	名 （内訳　　）		

6-1

平成 30(2018)年度　卒業生満足度評価アンケート

実施期間	平成３１年１月７日(月)～３月２０日(水)
実施人数	学部（大学院・専攻科含む）　９０３人 短期大学部　８２人 合　計　９８５人
回答数・回答率	６４８人　６５．８％

（回答の選択肢番号の意味）
５．そう思う
４．ややそう思う
３．どちらでもない
２．ややそう思わない
１．そう思わない

6-2（大学全体）

2018年度　卒業生満足度評価アンケート集計結果（徳島文理大学全体）

徳島文理大学

対象者数	985
回答者数	648
回答率	65.8%

Ⅰ．記入者について

性別	男性	女性	無効
	239	409	0
	36.9%	63.1%	0.0%

現所属学科の在籍年数	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
	58	477	105	7	1	0
	9.0%	73.6%	16.2%	1.1%	0.2%	0.0%

卒業後の進路	就職	進学	未定	無効
	566	36	46	0
	87.3%	5.6%	7.1%	0.0%

あなたの成績について一番多かったのは	優	良	可	無効
	282	288	78	0
	43.5%	44.4%	12.0%	0.0%

Ⅱ．授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%）					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.13	249	281	80	29	9	648	0
			38.4%	43.4%	12.3%	4.5%	1.4%		
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.00	179	339	88	32	10	648	0
			27.6%	52.3%	13.6%	4.9%	1.5%		
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	4.23	299	259	50	20	20	648	0
			46.1%	40.0%	7.7%	3.1%	3.1%		
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.23	274	284	65	16	9	648	0
			42.3%	43.8%	10.0%	2.5%	1.4%		
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	4.01	238	242	118	35	15	648	0
			36.7%	37.3%	18.2%	5.4%	2.3%		
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	3.85	202	247	122	56	21	648	0
			31.2%	38.1%	18.8%	8.6%	3.2%		

Ⅲ．大学の施設および支援体制について

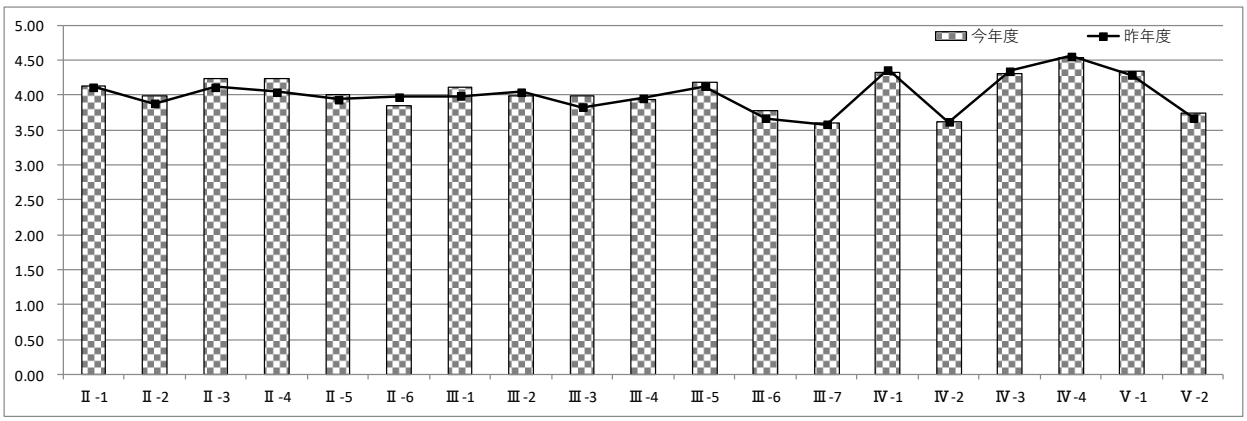
No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%）					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.12	289	216	95	29	19	648	0
			44.6%	33.3%	14.7%	4.5%	2.9%		
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	3.98	278	187	112	37	34	648	0
			42.9%	28.9%	17.3%	5.7%	5.2%		
3	図書館は利用しやすかったですか	4.00	271	202	102	47	26	648	0
			41.8%	31.2%	15.7%	7.3%	4.0%		
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	3.94	235	231	116	42	24	648	0
			36.3%	35.6%	17.9%	6.5%	3.7%		
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.19	291	243	70	32	12	648	0
			44.9%	37.5%	10.8%	4.9%	1.9%		
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	3.79	245	201	79	65	58	648	0
			37.8%	31.0%	12.2%	10.0%	9.0%		
7	生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	3.60	170	188	196	52	42	648	0
			26.2%	29.0%	30.2%	8.0%	6.5%		

Ⅳ．キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%）					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.32	338	227	51	18	14	648	0
			52.2%	35.0%	7.9%	2.8%	2.2%		
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.62	181	183	192	39	53	648	0
			27.9%	28.2%	29.6%	6.0%	8.2%		
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.31	361	188	58	21	20	648	0
			55.7%	29.0%	9.0%	3.2%	3.1%		
4	よき友と出会えましたか	4.53	458	121	40	14	15	648	0
			70.7%	18.7%	6.2%	2.2%	2.3%		

Ⅴ．総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%）					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.35	349	214	56	19	10	648	0
			53.9%	33.0%	8.6%	2.9%	1.5%		
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	3.75	212	202	144	41	49	648	0
			32.7%	31.2%	22.2%	6.3%	7.6%		



6-3（大学院・専攻科・学部全体）

2018年度　卒業生満足度評価アンケート集計結果（大学院・専攻科・学部全体）　徳島文理大学

対象者数	903
回答者数	601
回答率	66.6%

Ⅰ．記入者について

性別	男性	女性	無効
	233	368	0
	38.8%	61.2%	0.0%

現所属学科の在籍年数	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
	13	475	105	7	1	0
	2.2%	79.0%	17.5%	1.2%	0.2%	0.0%

卒業後の進路	就職	進学	未定	無効
	528	28	45	0
	87.9%	4.7%	7.5%	0.0%

あなたの成績について一番多かったのは	優	良	可	無効
	263	268	70	0
	43.8%	44.6%	11.6%	0.0%

Ⅱ．授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	授業科目は充実していましたか	4.13	233	257	76	26	9	601	0
			38.8%	42.8%	12.6%	4.3%	1.5%		
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	3.99	169	307	83	32	10	601	0
			28.1%	51.1%	13.8%	5.3%	1.7%		
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	4.25	281	241	44	17	18	601	0
			46.8%	40.1%	7.3%	2.8%	3.0%		
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.23	254	263	59	16	9	601	0
			42.3%	43.8%	9.8%	2.7%	1.5%		
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	4.00	221	224	109	32	15	601	0
			36.8%	37.3%	18.1%	5.3%	2.5%		
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	3.84	186	225	117	54	19	601	0
			30.9%	37.4%	19.5%	9.0%	3.2%		

Ⅲ．大学の施設および支援体制について

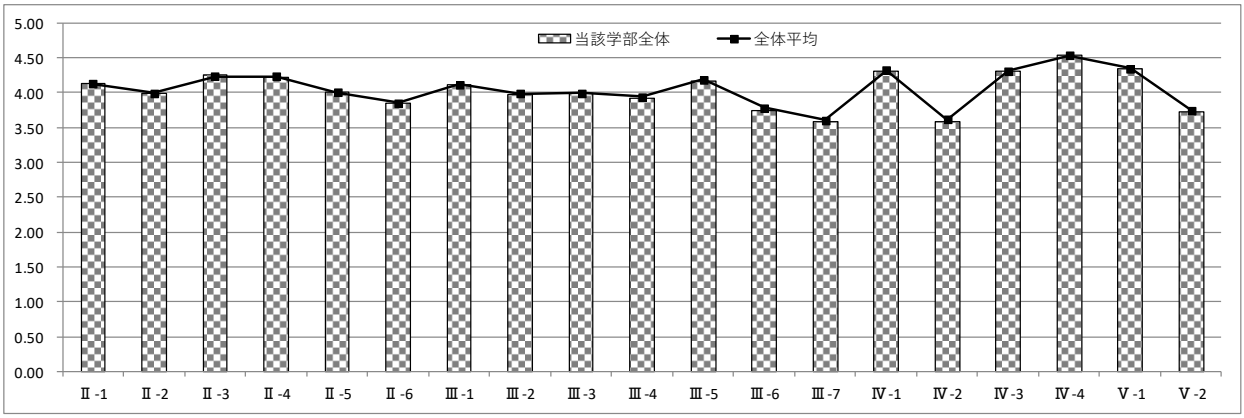
No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.11	267	197	91	28	18	601	0
			44.4%	32.8%	15.1%	4.7%	3.0%		
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	3.98	261	167	105	36	32	601	0
			43.4%	27.8%	17.5%	6.0%	5.3%		
3	図書館は利用しやすかったですか	3.99	251	187	93	45	25	601	0
			41.8%	31.1%	15.5%	7.5%	4.2%		
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	3.92	217	207	112	41	24	601	0
			36.1%	34.4%	18.6%	6.8%	4.0%		
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.17	265	227	66	31	12	601	0
			44.1%	37.8%	11.0%	5.2%	2.0%		
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	3.74	219	188	73	63	58	601	0
			36.4%	31.3%	12.1%	10.5%	9.7%		
7	生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	3.59	155	172	185	48	41	601	0
			25.8%	28.6%	30.8%	8.0%	6.8%		

Ⅳ．キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	キャンパスは清潔でしたか	4.31	308	215	47	17	14	601	0
			51.2%	35.8%	7.8%	2.8%	2.3%		
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.59	161	172	179	37	52	601	0
			26.8%	28.6%	29.8%	6.2%	8.7%		
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.30	333	174	55	19	20	601	0
			55.4%	29.0%	9.2%	3.2%	3.3%		
4	よき友と出会えましたか	4.53	424	112	38	13	14	601	0
			70.5%	18.6%	6.3%	2.2%	2.3%		

Ⅴ．総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.34	323	200	50	18	10	601	0
			53.7%	33.3%	8.3%	3.0%	1.7%		
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	3.73	194	183	137	39	48	601	0
			32.3%	30.4%	22.8%	6.5%	8.0%		



6-4（短期大学部全体）

2018年度　卒業生満足度評価アンケート集計結果（短期大学部）　徳島文理大学

対象者数	82
回答者数	47
回答率	57.3%

Ⅰ．記入者について

	男性	女性	無効
性別	6	41	0
	12.8%	87.2%	0.0%

	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
現所属学科の在籍年数	45	2	0	0	0	0
	95.7%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

	就職	進学	未定	無効
卒業後の進路	38	8	1	0
	80.9%	17.0%	2.1%	0.0%

	優	良	可	無効
あなたの成績について一番多かったのは	19	20	8	0
	40.4%	42.6%	17.0%	0.0%

Ⅱ．授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	授業科目は充実していましたか	4.13	16	24	4	3	0	47	0
			34.0%	51.1%	8.5%	6.4%	0.0%		
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.11	10	32	5	0	0	47	0
			21.3%	68.1%	10.6%	0.0%	0.0%		
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	4.00	18	18	6	3	2	47	0
			38.3%	38.3%	12.8%	6.4%	4.3%		
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.30	20	21	6	0	0	47	0
			42.6%	44.7%	12.8%	0.0%	0.0%		
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	4.04	17	18	9	3	0	47	0
			36.2%	38.3%	19.1%	6.4%	0.0%		
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	4.02	16	22	5	2	2	47	0
			34.0%	46.8%	10.6%	4.3%	4.3%		

Ⅲ．大学の施設および支援体制について

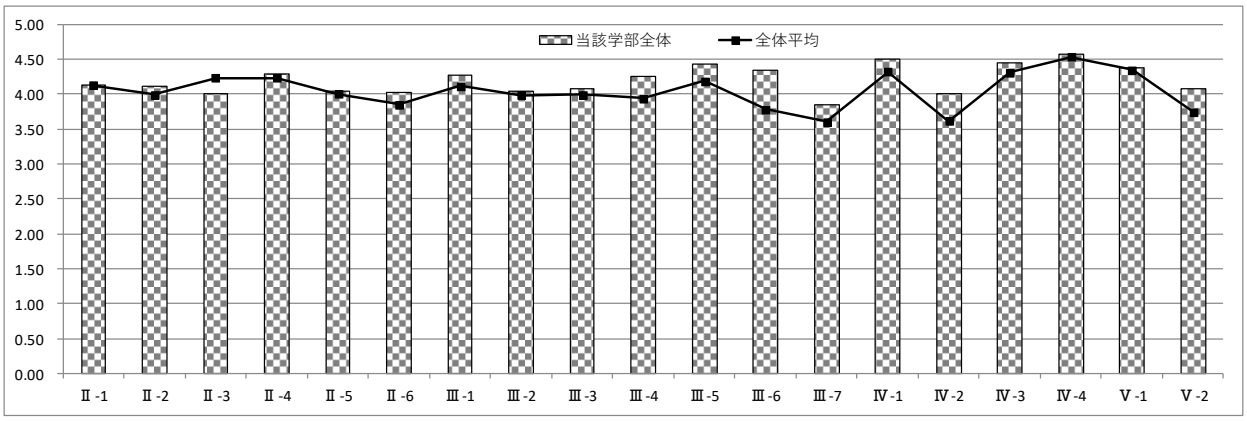
No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.28	22	19	4	1	1	47	0
			46.8%	40.4%	8.5%	2.1%	2.1%		
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.04	17	20	7	1	2	47	0
			36.2%	42.6%	14.9%	2.1%	4.3%		
3	図書館は利用しやすかったですか	4.09	20	15	9	2	1	47	0
			42.6%	31.9%	19.1%	4.3%	2.1%		
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	4.26	18	24	4	1	0	47	0
			38.3%	51.1%	8.5%	2.1%	0.0%		
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.43	26	16	4	1	0	47	0
			55.3%	34.0%	8.5%	2.1%	0.0%		
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	4.34	26	13	6	2	0	47	0
			55.3%	27.7%	12.8%	4.3%	0.0%		
7	生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	3.85	15	16	11	4	1	47	0
			31.9%	34.0%	23.4%	8.5%	2.1%		

Ⅳ．キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	キャンパスは清潔でしたか	4.51	30	12	4	1	0	47	0
			63.8%	25.5%	8.5%	2.1%	0.0%		
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	4.00	20	11	13	2	1	47	0
			42.6%	23.4%	27.7%	4.3%	2.1%		
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.45	28	14	3	2	0	47	0
			59.6%	29.8%	6.4%	4.3%	0.0%		
4	よき友と出会えましたか	4.57	34	9	2	1	1	47	0
			72.3%	19.1%	4.3%	2.1%	2.1%		

Ⅴ．総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.38	26	14	6	1	0	47	0
			55.3%	29.8%	12.8%	2.1%	0.0%		
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	4.09	18	19	7	2	1	47	0
			38.3%	40.4%	14.9%	4.3%	2.1%		



6-5

平成３０年度卒業生満足度評価アンケート（Ｗｅｂ）について

Ⅰ　卒業生満足度評価アンケートの実施について

日頃より、本学のＦＤ活動にご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、卒業式を迎え、本年度の卒業生（大学院生含む）に対し、本学に対する満足度を調査する時期がまいりました。この調査は、本学の教育の充実と改善を図るために行っており、調査項目は、以下の３分野となっております。

①授業・教育課程について
②大学の施設および支援体制について
③キャンパスライフについて

調査はＷｅｂ上にあるアンケートに答える形で行い、その結果は「ＦＤ研究部会活動報告書」に記載するとともに、大学のホームページの「教育・研究支援－授業改善活動」でも一般公開しております。

ご多用のこととは存じますが、より多くの卒業生から本学に対する意見や感想を聞けるよう、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

Ⅱ　卒業生満足度評価アンケート実施の手順

１　アンケート実施前

①学部（学科）内で、アンケート実施期間（開始日、終了日）を決定してください。
※アンケート回答可能期間　平成３１年１月７日（月）～３月２０日（水）
②学部（学科）で、本年度の卒業生への連絡担当者を決めてください。
③学部（学科）の連絡担当者とアンケート実施期間を、学部のＦＤ委員にお伝えください。
④学部のＦＤ委員の先生方は、連絡担当者の氏名とメールアドレス、アンケート実施期間を、理工学部小林郁典先生に連絡してください。
※小林郁典先生（Email：ikunori@fst.bunri-u.ac.jp）

２　アンケート実施開始時

①連絡担当の先生は、アンケート開始日に、学生に依頼のメールを送付してください。
※グループウェア掲示板に「アンケート回答依頼文」を掲載しておきますので、学生への周知にご利用ください。
・卒業生へのアンケート回答依頼文（別紙資料１）、アンケート内容（別紙資料２）
※また、学生ポータルサイト「おしらせ登録」での周知は、１月７日（月）に、教育研究支援課が行います。

３　アンケート実施中

①学科別の回答数が、リアルタイムに閲覧できるシステムに変更しました。
http://sd.bunri-u.ac.jp/enq/check.php
上記のURLにアクセスしていただくと、学科別の回答数がわかります。このURLを教職員間で共有していただき、回答数の増加にご協力いただけると幸いです。
②連絡担当者は、回答状況をもとに、本年度の卒業生に、適宜、回答依頼のメールを送付したり、声かけをしたりして、回答を促してください。

４　アンケート終了後

①該当卒業生以外の回答（学部選択違い等）があった場合、連絡担当者に問合せをします。
②データの集計ができ次第、集計結果を学部のＦＤ委員に伝えます。

連絡担当者になられた先生を中心に、所属学部（学科）内で、回答状況等の情報を共有し、より多くの卒業生がアンケートに回答できるように、ご協力をお願いいたします。

○不明な点がございましたら、以下の担当者へお尋ねください。

徳島ｷｬﾝﾊﾟｽ：橋本志保（E-mail: s-hashimoto@tks.bunri-u.ac.jpTEL.088-602-8664）
香川ｷｬﾝﾊﾟｽ：鞍田典昭（E-mail: n-kurata@kgw.bunri-u.ac.jp　TEL.087-899-7552）
システム　：小林郁典先生（Email：ikunori@fst.bunri-u.ac.jp）

用語解説

【ＳＰＯＤ】

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education）の頭文字をとって「SPOD」と呼ばれている。四国地区の大学及び高等専門学校の連携・協働によって、地区内のＦＤ／ＳＤ事業の推進と大学等の教育力の向上を図ることを目的として、平成 20 年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業としてスタートし、現在、四国地区にある 32 の高等教育機関が加盟するネットワーク。

【ファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）】

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の実施、新任教員のための研修会の実施などを挙げることができる。

【スタッフ・ディベロップメント（ＳＤ）】

事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取り組みを指す。

【ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）】

卒業認定・学位授与に関する基本的な方針。学部・学科が教育活動の成果として学生に保証する最低限の基本的な資質・養成する人材像と教育研究上の目的を記したもの。

【カリキュラム・ポリシー（ＣＰ）】

教育課程編成・実施の方針。ＤＰを保証する体系性と整合性が担保されたカリキュラムを記したもの。

【アドミッション・ポリシー（ＡＰ）】

入学者受け入れ方針。各大学･学部がＤＰを踏まえ、どのような教育活動を行い、また、どのような学生を求めているのかなどの考え方をまとめたもの。

【アクティブ・ラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的・倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学修等が含まれるが、教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

【ルーブリック評価】

いくつかの評価項目について、各レベルの典型となる状況を評価尺度として記述し、学習者のパフォーマンスを評価するもの。通常、表のかたちで示され、判定結果を丸で囲うようにして採点する。学習プロセスの中の場面を切り出し、それぞれに評価項目を設定する。

【ポートフォリオ】

大学等の教員が自分の授業や指導の記録である「教育業績ファイル」を意味するティーチング・ポートフォリオと学生が学習過程ならびに各種の学習成果を長期にわたって収集したものを指すラーニング・ポートフォリオがある。

【ＩＲ（機関調査）】

機関の計画策定、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する目的で、高等教育機関の内部で行われる実践志向の強い組織的な調査分析活動。

ＦＤ研究部会活動報告書　第１０号

平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

平成 31 年 4 月発行

編　集　　徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部ＦＤ研究部会
発　行　　徳島文理大学
徳島キャンパス　〒770-8514　徳島県徳島市山城町西浜傍示 180
電話：088-602-8000（代表）
香川キャンパス　〒769-2193　香川県さぬき市志度 1314-1
電話：087-894-5111（代表）